取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

SIENTA

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS | 目次

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

3 室内装備の使い方

3-1. エアコンとデフォッガーの使い方

3-2. オーディオの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

3-5. その他の室内装備の使い方

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両の仕様

さくいん

外観

フロントフォグライト非装着車
ドアミラー P. 75
給油口 P. 80
ワイパー P. 145
ボンネット P. 224
方向指示灯 P. 131
ヘッドライト P. 141
BTO00CA001
車幅灯 P. 141
方向指示灯 P. 131
フロントフォグライト装着車
車幅灯 P. 141
方向指示灯 P. 131
BTO00CA010
ヘッドライト P. 141
フォグライト P. 144

リヤウインドウ
デフォッガー P. 172
リヤワイパー P. 147
アンテナ P. 184
バックドア P. 45
スライドドア P. 35
ドア P. 32
SIENTA
BTO00CA002
番号灯 P. 141
尾灯 P. 141
方向指示灯 P. 131
タイヤ
●ローテーション P. 220
●交換 P. 270
●応急修理 P. 282

イラスト目次　室内

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

A

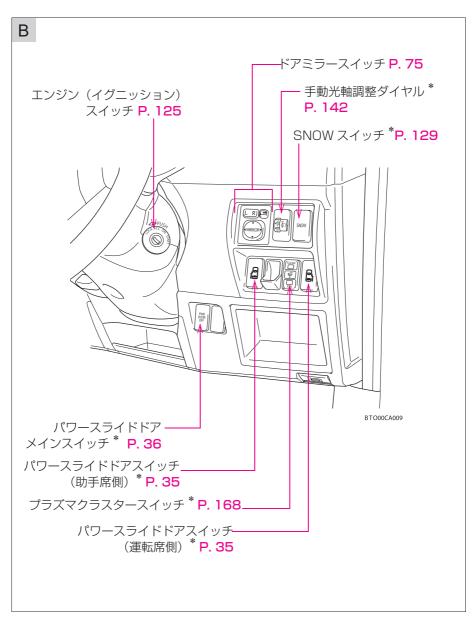
バニティミラー（助手席）P. 199
サンバイザー（助手席）P. 198
マップライト P. 186
ラゲージルームライト P. 187
シートベルト P. 66
BTO00CA004
ルームライト P. 187
バニティミラー（運転席）P. 199
サンバイザー（運転席）P. 198
インナーミラー P. 74

B

ドアロックスイッチ P. 32
ドアロックレバー P. 33
AUTO
AUTO
ウインドウロックスイッチ P. 77
BTO00CA005
パワーウインドウスイッチ P. 77

インストルメントパネル

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

A
マニュアルエアコン装着車
マニュアルエアコン P. 160
A/C
OFF
USE
WITH
BTO00CA008
リヤウインドウデフォッガースイッチ P. 172
オートエアコン装着車
オートエアコン P. 165
AUTO
OFF
A/C
25
20
30
REAR
FRONT
AUTO
BTO00CA007
リヤウインドウデフォッガースイッチ P. 172

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取りつけかたなどをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 105）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務付けられています。)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

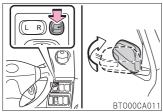
ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

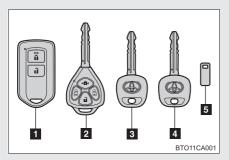
➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

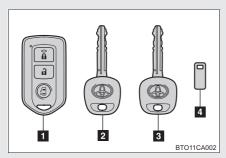
⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

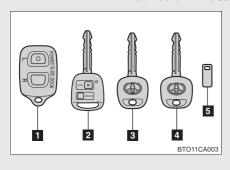
運転する前に 1

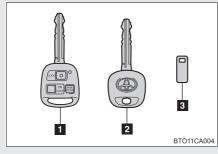
キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。

スマートドアロック装着車かつ両側パワースライドドア装着車

1 電子キー（2 ボタン）
2 ワイヤレスキー（4 ボタン）
3 マスターキー
4 サブキー（エンジンイモビライザー装着車）
5 キーナンバープレート

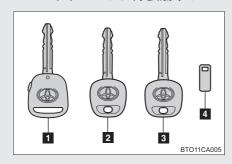
スマートドアロック装着車かつ助手席側パワースライドドア装着車

1 電子キー（3 ボタン）
2 マスターキー
3 サブキー（エンジンイモビライザー装着車）
4 キーナンバープレート

スマートドアロック非装着車かつ両側パワースライドドア装着車

1 パワースライドドアリモコン
2 ワイヤレスキー（2 ボタン）
3 マスターキー
4 サブキー（エンジンイモビライザー装着車）
5 キーナンバープレート

スマートドアロック非装着車かつ助手席側パワースライドドア装着車

1 ワイヤレスキー（3 ボタン）

2 サブキー（エンジンイモビライザー装着車）

3 キーナンバープレート

スマートドアロック非装着車かつパワースライドドア非装着車

1 ワイヤレスキー（1 ボタン）

2 マスターキー

3 サブキー（エンジンイモビライザー装着車）

4 キーナンバープレート

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管ください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 299）

■航空機に乗るときは

航空機に電子キー・ワイヤレスキーを持ち込む場合は、航空機内で電子キー・ワイヤレスキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

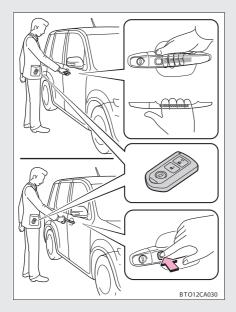
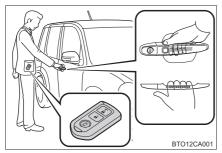
●キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、濡らしたりしないでください。

●キーを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。

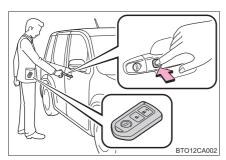
スマートドアロック*

電子キーを携帯するだけで以下の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください。）

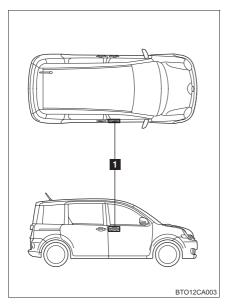
ドアの解錠・施錠 （→P. 22）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠・施錠（運転席ドアハンドルのみ）

ハンドルを握って解錠する

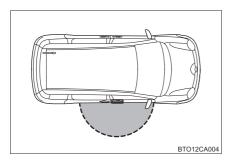
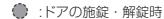
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後３秒間は解錠できません。

ロックスイッチを押して施錠する

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

:ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートドアロック機能を停止します。

●2 週間以上スマートドアロック機能を使用しなかった

●車両の外約 70 cm 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかを行うと、スマートドアロック機能が復帰します。

●ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する

●ワイヤレス機能で施錠・解錠する（→P. 28）

●エンジンを始動する（→P. 125）

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は１～３年です。（電子キーを使用しなくても電池は消耗します。）スマートドアロック機能やワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 246）

●電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・ ＴＶ
・ パソコン
・ 充電中の携帯電話やコードレス電話機
・ 電気スタンド

■制限事項について

エンジン スイッチにキーが挿し込まれているとき、またはいずれかのドア（バックドアを含む）が開いているときは、ロックスイッチを押しても施錠されません。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）

●手袋をはめていると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートドアロック機能による解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します。）

●キーの操作により施錠すると、スマートドアロック機能での解錠操作をすることができません。その場合は、ワイヤレス機能またはキーの操作により解錠してください。

●作動範囲（→P. 23）への急な接近や、急なドアハンドル操作をしたときは、ドアが解錠されないことがあります。その場合は、一度ドアハンドルをもとの位置にもどして、再度、解錠操作をしてください。

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、施錠されます。

■電池が切れたときは

→P. 246

■販売店で設定可能な機能

スマートドアロック機能を非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧 →P. 317）

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響についての警告

- ●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、車外アンテナ（→P. 23）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- ●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートドアロック機能を非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートドアロック機能は微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートドアロック機能やワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●複数の電子キーが近くにあるとき

●電子キーを､以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき

・ほかの車の電子キー

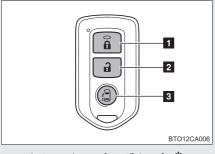
・電波式ワイヤレスリモコン

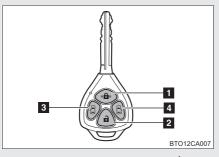
・パソコン

●リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

ワイヤレスリモコン

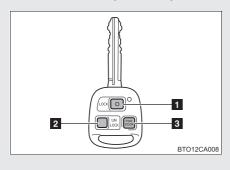
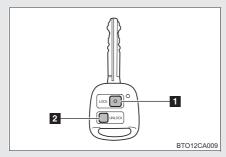
ドアを施錠・解錠できます。

電子キー*

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠
3 助手席側パワースライドドア開閉*（約 1 秒長押し）

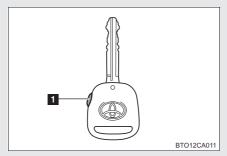
ワイヤレスキー（4 ボタン）*

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠
3 助手席側パワースライドドア開閉（約 1 秒長押し）
4 運転席側パワースライドドア開閉（約 1 秒長押し）

ワイヤレスキー（3 ボタン）*

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠
3 助手席側パワースライドドア開閉（約 1 秒長押し）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ワイヤレスキー（2 ボタン）*

1 全ドア施錠

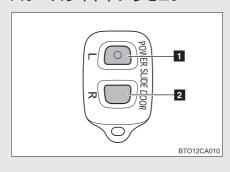
2 全ドア解錠

ワイヤレスキー（1 ボタン）*

1 全ドア施錠・解錠

パワースライドドアリモコン*

1 助手席側パワースライドドア開閉（約 1 秒長押し）

2 運転席側パワースライドドア開閉（約 1 秒長押し）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動の合図

ドア：非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

パワースライドドア：ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■制限事項について

エンジン スイッチにキーが挿し込まれているときは、ワイヤレスリモコンが作動しません。

■電池の消耗について

→P. 24

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■電池が切れたときは

→P. 246

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 27

■パワースライドドアの反転作動について

作動中に再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押すと、反転作動に切りかわります。ただし、自動開閉作動が開始して約 1 秒間は、再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押しても反転作動に切りかわりません。

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートドアロック装着車

→P. 27

スマートドアロック非装着車

以下のようなの場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ワイヤレスキーが金属製の物に接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

フロントドア

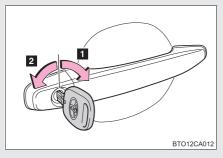
スマートドアロック機能やワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートドアロック機能（スマートドアロック装着車）

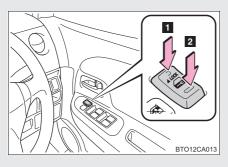
→P. 22

■ ワイヤレス機能

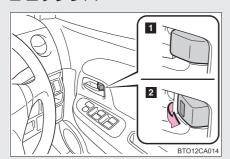
→P. 28

■ キー

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする。

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める。

キーがエンジン スイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

警告

■**事故を防ぐために**

運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを必ず使用する

●全てのドアを施錠する

●全てのドアを確実に閉める

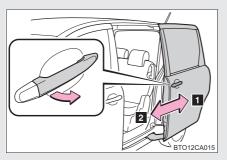
●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■**ドアを開閉するときは**

傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対応できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

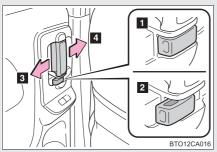
スライドドア

ドアハンドルやパワースライドドアスイッチ、ワイヤレス機能を使って開閉することができます。

■ スライドドアハンドル

1 開く

2 閉じる

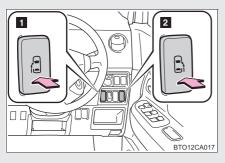
ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

3 開く

4 閉じる

■ パワースライドドアスイッチ（パワースライドドア装着車）

1 助手席側スイッチ
（約 1 秒長押し）

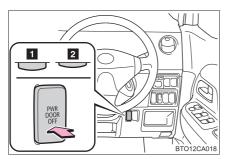
2 運転席側スイッチ
（約 1 秒長押し）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

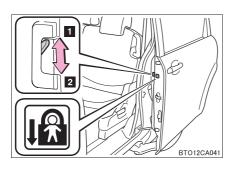
■ ワイヤレス機能（パワースライドドア装着車）

→P. 28

パワースライドドアを使用するときは

パワースライドドアメインスイッチを ON にする

1 ON

2 OFF

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります

1 解錠

2 施錠

お子さまが内側からスライドドアを開けないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。

知識

■中間ストッパー

給油口が開いていると、助手席側のスライドドアは途中までしか開きません。（中間ストッパーの位置で停止します。）

■スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き、スライドドアが自動で完全に閉まります。

●エンジン　スイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。

●車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。

●イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。）

■パワースライドドアの作動可能条件（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアメインスイッチが ON で、以下の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●パワースライドドアが解錠されている（閉作動を除く）

●給油口が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）

●エンジン スイッチが“ ON ”のときは上記に加え、車速が 3km/h 未満かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

・シフトレバーが P のとき
・パーキングブレーキがかかっているとき
・ブレーキペダルを踏んでいるとき

■パワースライドドアの作動について（パワースライドドア装着車）

●パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

●パワースライドドアメインスイッチがOFFのときは､パワースライドドアは作動しませんが、手動で開閉できます。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。ただし、自動で開けているときに全開位置から約 5cm 手前の範囲で異常を感知すると、その位置で作動を停止します。

●連続して 2 回以上同方向への異常を感知すると、ブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。
もう一度ドアを自動で作動させるときは、メインスイッチを OFF にしたあと、ドアをいったん手動で全閉または全開にしてから行ってください。

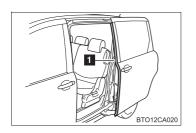
●給油口が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとすると手動作動に切りかわります。

●助手席側パワースライドドア開閉中に給油口を開けると、手動操作に切りかわります。

■バッテリーを再接続したときは

パワースライドドアを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

●スライドドアのドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にします。

■挟み込み防止機構（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアの前端部には、センサー（1）がついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 全てのドアを確実に閉める
- 全てのドアを施錠する
- お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

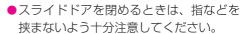
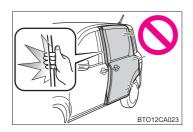
■スライドドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・腕・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが停止しないため、必ず全開にしてください。傾斜した場所ではドアが突然動き出すおそれがあります。

- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアにあたったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。

- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

警告

■**スライドドアイージークローザーについて（イージークローザー装着車）**

●スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

●イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

●ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、イージークローザー作動中に車内のドアハンドルを引いても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。

■**パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）**

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

●周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

警告

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断し、自動作動が停止し、手動作動に切りかわることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時自動開閉中にエンジン スイッチを“ ON ”にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤作動防止のため、パワースライドドアメインスイッチをOFFにしてください。

■挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

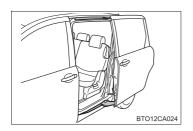
●挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■スライドドアについて

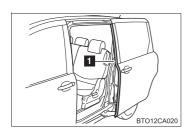
●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

■スライドドアイージークローザーについて（イージークローザー装着車）

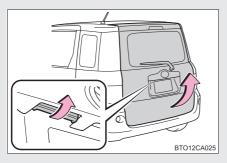
●イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●ドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1 度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

パワースライドドア前端部のセンサー（1）を刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。

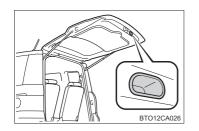
バックドア

バックドアハンドルを使って開閉することができます。

BTO12CA025

バックドアハンドルを押したまま、バックドアを持ち上げる

知識

■バックドアグリップ

BTO12CA026

バックドアを引き下げるときにお使いください。
バックドアグリップを持ったまま直接バックドアを閉めないでください。

■ラゲージルームライトについて

スイッチを DOOR にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームライトが点灯します。

警告

■**走行中の警告**

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**お子さまを乗せているときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

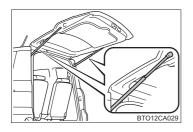
警告

● バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

注意

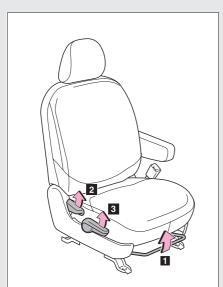
■ **ダンパーステーについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

● ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

● ロッド部を軍手などでふれない

● バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない

● ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

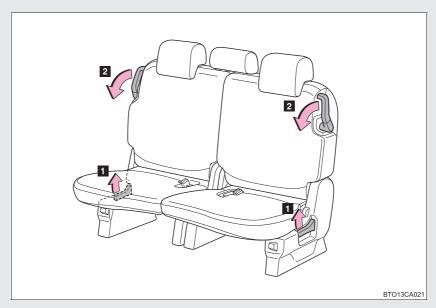
フロントシート

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整（運転席）

警告

■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。
- 走行中はシート操作をしないでください。

セカンドシート

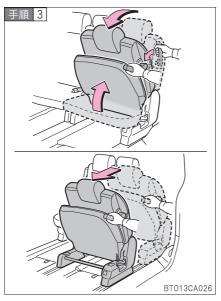
1 前後位置調整

2 リクライニング調整

サードシートへの乗り降り

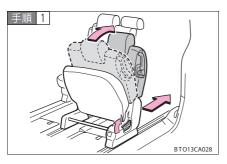
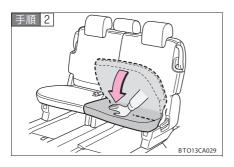
■ 乗り降りするときは

手順 1 セカンドシートベルトのプレートをベルトハンガーに挿し込む。

手順 2 セカンドシート中央席のシートベルトを格納する。

シヨルダーレバーを引く。

背もたれが前に倒れて、シートクッションが自動的にはねあがりシートを前方に移動させることができます。

・ショルダーレバーを引いたまま、シート全体を前方へ移動します。

■ 乗り降りしたあとは

背もたれをカチッと音がするまで起こし、スライドレバーを引いたままシートを後方に移動させる。

シートクッションが固定されるまで押し下げてシートを固定する。

背もたれおよびシートクッションが確実に固定されていることを確認します。

⚠警告

■シート調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

●走行中はシート操作をしないでください。

●シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

●左右のシート位置を前後にずらしたまま、中央席に座らないでください。

■サードシートへの乗り降りについて

●サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。

●セカンドシートに乗員がいるときは、サードシートから操作を行わないでください。セカンドシートの乗員がけがをするおそれがあります。

■サードシートへの移動について

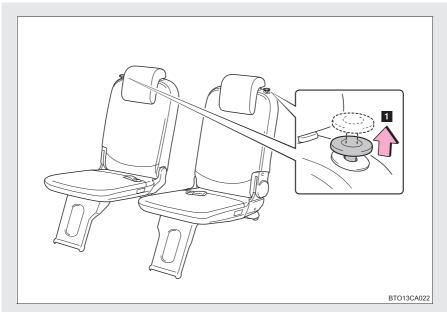
走行中はサードシートへ移動しないでください。

注意

■**サードシートへの乗り降りについて**

●シートクッションを起こしたときは、シートクッションの土台部分に乗らないでください。

●サードシートから操作するときは、セカンドシートの足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

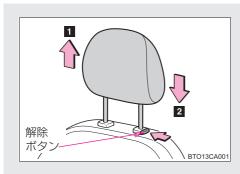
サードシート

1 リクライニング調整

⚠ 警告

■ **シート調整について**

● 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

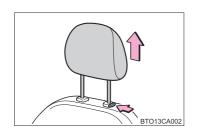
● 走行中はシート操作をしないでください。

ヘッドレスト

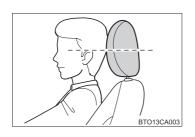
1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

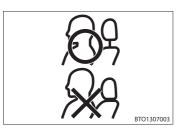
■ヘッドレストの取りはずし

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■フロントシートのヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■セカンドシート、サードシートのヘッドレストの使用について

使用するときは常に格納位置から上げた位置にしてください。

■セカンドシート中央席のヘッドレストの使用について

BTO1307003

使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。
また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

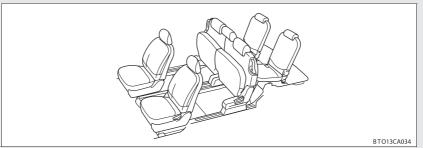
- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

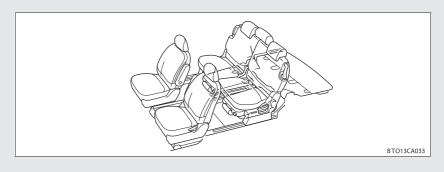
シートアレンジ

シートは状況に応じて次のようなアレンジを行うことができます。それぞれの説明ページを読んでから行ってください。

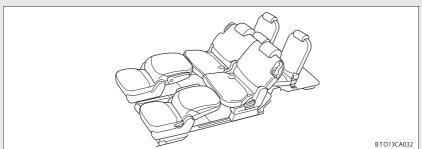
■ シートの格納

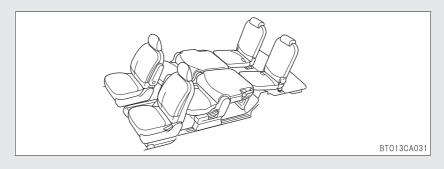
● チップアップのしかた（→P. 59）

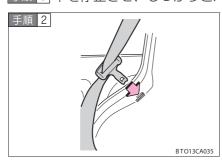
BTO13CA034

● サードシートの格納のしかた（→P. 60）

BTO13CA033

■ フラットシート

● フロントシートとセカンドシートでフラット状態にするとき (→P. 62)

BTO13CA032

● セカンドシートとサードシートでフラット状態にするとき (→P. 63)

BT013CA031

チップアップのしかた

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

セカンドシート左右席のシートベルトをベルトハンガーに取り付ける。

中央席のシートベルトを格納します。

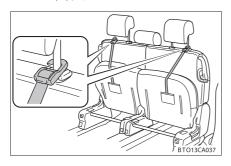
・シートベルトのバックルも格納します。(→P. 67)

手順 3 ショルダーレバーを引き、背もたれを前方に倒す。(→P. 51)

シートクッションが自動的にはねあがり、シートを移動させることができます。

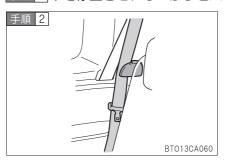
手順 4 背もたれをもとにもどし、シートスライドを固定する。

スライドレバーを引いてシートを前後に動かすことができます。

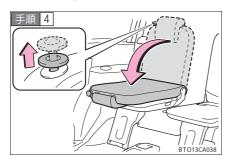
手順 5 シートクッション裏側のポケットからシート固定バンドを取り出す。

ヘッドレストにシート固定バンドをかけ、シートを固定する。

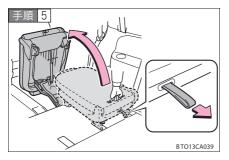
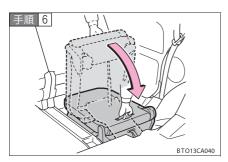
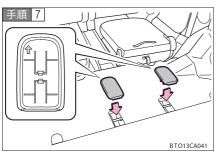
シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

サードシートの格納のしかた

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

サードシートのシートベルトをベルトハンガーに取り付ける。

シートベルトのバックルも格納します。

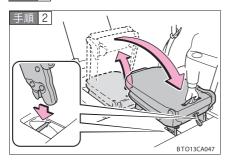
手順 3 サードシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる。(→P. 55)

背もたれを前方に倒す。

リクライニングノブを引いて、背もたれを前方に倒します。

シートロック解除ストラップを引いてロックを解除し、グリップを握りサードシート後端を垂直になるまで引き起こす。

引き起こしたサードシートを床面に格納する。

ラゲージスペースのシート固定部に保護カバーを取り付ける。（4WD 車の応急用タイヤ装着車を除く）

カバー裏面の矢印を車両前側に向け、シート固定部に確実にはめ込み固定します。

・保護カバーはデッキアンダートレイに格納してあります。

■ サードシートをもとにもどすときは

手順 1 保護カバーを取りはずす。

サードシートのグリップを握り、サードシートの後端を持ち上げ、シート固定位置まで引き上げる。

着座ロック部をシート固定部にゆっくり降ろし、後側を床に押しつけて確実にロック部を固定させます。

手順 3 背もたれを起こし、固定する。

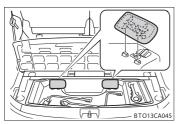
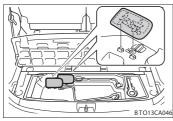
リクライニングノブを引いたまま背もたれを起こします。

知識

■ラゲージルームについて

サードシートを格納し、セカンドシートを前方に動かすことによりラゲージルームを広げることができます。

■保護カバーの格納について

デッキアンダートレイに表示されている矢印と保護カバー裏面の矢印の方向を合わせて保護カバーを固定部に取り付けます。

(FF 車のタイヤパンク応急修理キット装着車)

(FF 車の応急用タイヤ装着車 4WD 車のタイヤパンク応急修理キット装着車)

フロントシートとセカンドシートでフラット状態にするとき

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 フロントシートのヘッドレストをはずす。(→P. 55)

アームレスト装着車は、アームレストを起こします。

手順 3 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる。(→P. 50)

手順 4 セカンドシートベルトのバックルを格納する。

手順 5 フロントシートの背もたれを、セカンドシートのシートクッションと段差がなくなるまで後方に倒す。(→P. 49)

セカンドシートとサードシートでフラット状態にするとき

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 セカンドシート左右席のシートベルトをベルトハンガーに取り付ける。（→P. 59）

中央席のシートベルトを格納します。

手順 3 フロントシートをいちばん前まで移動させる。（→P. 49）

手順 4 セカンドシートをいちばん前まで移動させる。（→P. 50）

手順 5 セカンドシートのヘッドレストをはずす。（→P. 55）

手順 6 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。（→P. 50）

カチッと音がするまでサードシートに押し、セカンドシートを固定します。

手順 7 セカンドシート、およびサードシートのシートベルトのバックルを格納する。

警告

■シートアレンジについて

● 以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・必ず平坦な場所でシフトレバーをＰに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
・走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
・シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
・シートのあいだにシートベルトが挟みこまれていないか確認してください。

⚠警告

- シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないようにしてください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■シートの格納について

- ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。
- 格納操作時以外、シートロック解除ストラップを操作しないでください。
- 格納するときは必ずグリップを持って操作してください。
- 格納したときは必ずシート固定部に保護カバーを取り付けてください。

- シートをもとにもどしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。
- シートをもとにもどすときは、シート脚部と床面ロック部のあいだに手や足を近付けないでください。手や足を挟み、けがをするおそれがあります。

■フラットシートについて

フラットにした状態で人や荷物を乗せて走行しないでください。

注意

■**シートアレンジについて**

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■**シートの格納について**

● シートを格納するときや、もとにもどすときは、床面やシートクッションの上に物がないことを確認してから行ってください。

● シートクッションを起こしたときは、シートクッションの土台部分に乗らないでください。

■**フラットシートについて**

● 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

● フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。

シートベルト

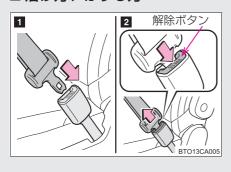
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

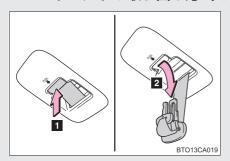
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方

1 固定

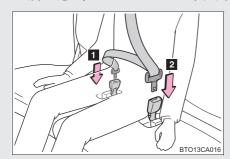
“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

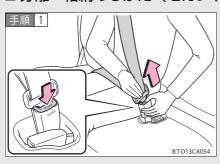
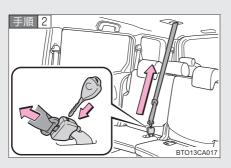
■ シートベルトの取り出し方（セカンドシート中央席）

1 プレートを押す

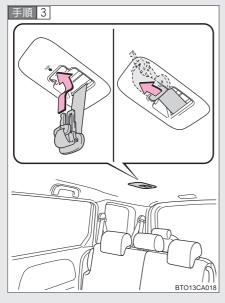
2 ホルダーから取り出す

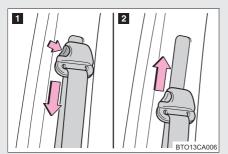
■ 着け方（セカンドシート中央席）

1 プレート A

2 プレート B

“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

■ 分離・格納のしかた（セカンドシート中央席）

バックル B の解除ボタンを押す。

キーをバックル A に挿し込む。

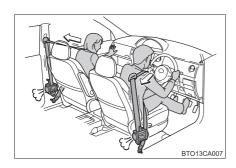
シートベルトを分離・格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

プレート A、B をホルダーに格納する。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

1
運転する前に

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果の確保に貢献します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

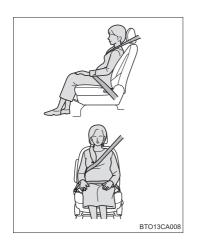
■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 95)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 66)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 66)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■シートベルトの着用について

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは 1 つにつき一人で使用する
  お子さまでも 1 つのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシート、またはサードシートに座らせてシートベルトを着用させる
- シートは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■**シートベルトの損傷・故障について**

●ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

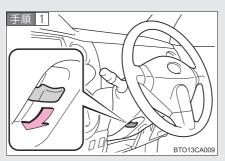
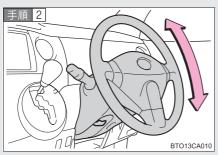
●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付シートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**プリテンショナー付シートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる。

ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする。

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

⚠ 警告

■走行中の警告

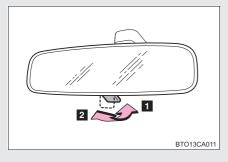
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

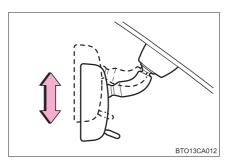
ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

BTO13CA011

1 通常使用状態
2 防眩状態

上下調整のしかた

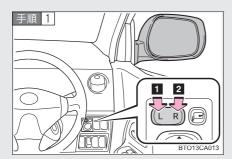
BTO13CA012

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

警告

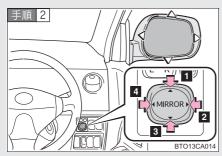
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

ミラーを選ぶ。

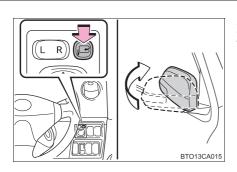
1 左

2 右

スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する。

1 上

2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

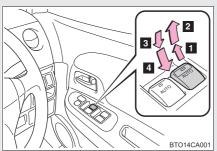
警告

■走行しているときは

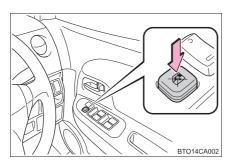
走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める
2 自動全閉※（フロントドア）
3 開ける
4 自動全開※（フロントドア）

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■挟み込み防止機能（フロントドア）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■初期設定について

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーウインドウの初期設定をしてください。

●初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

・運転席スイッチでの助手席ドアガラスの開閉
・ドアガラスの自動開閉
・挟み込み防止機能

●初期設定がされていないドアガラスは、スイッチの作動表示灯が点滅します。

●初期設定は、各ドアガラスごとに、各席スイッチで行います。運転席スイッチで助手席ドアガラスの初期設定をすることはできません。

手順 1 エンジン スイッチを“ON ”にする

手順 2 パワーウインドウスイッチを下に押し続け、半分くらいまでドアガラスを開ける

手順 3 パワーウインドウスイッチ上に引き続け、ドアガラスを全閉し、さらにスイッチを 1 秒間引き続ける

初期設定が完了すると、スイッチの作動表示灯が点滅から点灯にかわります。

警告

■ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などをださないよう声かけをしてください。

●お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能（フロントドア）

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

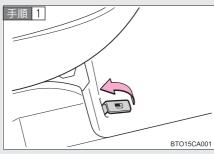
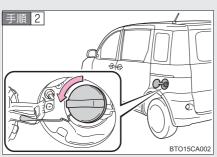
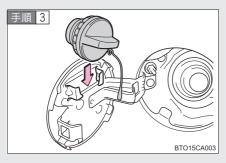
●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

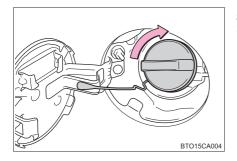
給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

エンジン スイッチを“ LOCK ”にして、ドアと窓を閉めてください。

■ 給油口の開け方

給油口を開ける。

キャップをゆっくりまわして開ける。

キャップをハンガーにかける。

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■燃料タンク容量

FF 車：約 42 L
4WD 車：約 45L

■安全機能について

- 給油口が開いているときに、助手席側スライドドアを開けようとしても、約15cm 程しか開けることができません。給油口を閉めたあと、一度スライドドアを閉めてから再度開けなおしてください。
- 給油口が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとすると作動を中止します。（パワースライドドア装着車）
- 助手席側パワースライドドアの自動開閉中に給油口を開けると、作動を停止し、手動作動に切りかえます。（パワースライドドア装着車）

警告

■給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分にふれて身体の静電気を除去する
  放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップを緩めたときに、"シュー"という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
  キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、帯電している人や物にふれない
  再び帯電する可能性があります。

警告

■給油時の注意

- 給油をするときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの店員を呼んで指示に従ってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

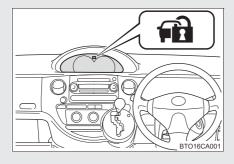
注意

■給油するときは

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム＊

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

エンジン スイッチを“ LOCK ”にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを挿し込み、エンジン スイッチを “ ACC ” または “ ON ” にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

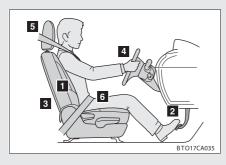
注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→P. 49）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→P. 49）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→P. 49）

4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→P. 73）

5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる（→P. 55）

6 シートベルトが正しく着用できる（→P. 66）

警告

■**走行中は**

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

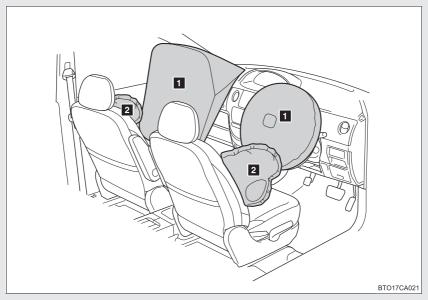
●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■**シートを調整するときは**

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。

フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

SRS サイドエアバッグ*

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■SRS エアバッグが展開すると

- ●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- ●作動音とともに白いガスが発生します。
- ●フロント席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- ●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

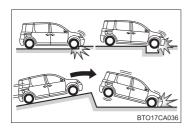
■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- ●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- ●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

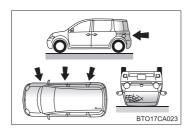
■衝突以外で作動するとき

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

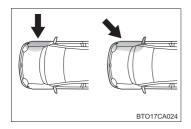
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

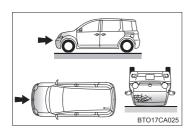
■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグが作動しない場合があります。

BTO17CA024

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

BTO17CA025

●前方からの衝突

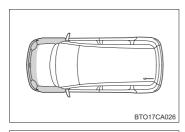
●後方からの衝突

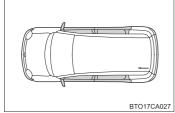
●横転

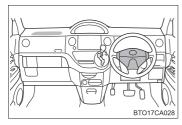
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

BTO17CA026

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17CA027

●SRS サイドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17CA028

●ハンドルのパッド部分や助手席SRSエアバッグのカバー部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

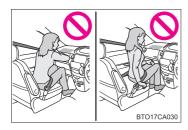
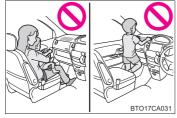
BTO17CA029

●SRS　サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠警告

■SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●運転手と乗員全てがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- ●助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- ●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。（→P. 105）

- ●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

- ●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- ●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

警告

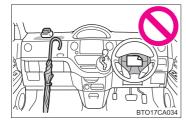
■SRS エアバッグについて

BTO17CA032

●ドアやフロント・サイドピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。

BTO17CA033

●助手席や、外側リヤシートでドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。

BTO17CA034

●ダッシュボード、ステアリングパッド部などには何も取り付けたり、置いたりしない。

警告

■**SRS エアバッグについて**

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているためふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとにもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮周辺の修理、取りはずし、改造

●フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理、改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

● 車の仕様やお子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。

● 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属する取り扱い説明書をお読みください。

● この車は2006年10月1日施行の保安規準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子様の体重により次の5種類に分類されます。

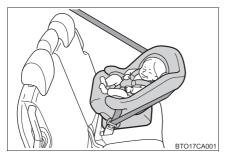
グループ0　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　：9 ～ 18kg
グループⅡ　：15 ～ 25kg
グループⅢ　：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0^{+} に相当

チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0^{+}、Ⅰ に相当

ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

<table>
<tr><th rowspan="3">質量グループ</th><th colspan="3">着席位置（または他の場所）</th></tr>
<tr><th>フロントシート</th><th colspan="2">セカンドシート</th></tr>
<tr><th>助手席</th><th>左右席</th><th>中央席</th></tr>
<tr><td>0
（10kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td>0+
（13kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅰ
（9 ～ 18kg）</td><td>前向き　UF</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">×</td></tr>
<tr><td>うしろ向き ×</td></tr>
<tr><td>Ⅱ
（15 ～ 25kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td>Ⅲ
（22 ～ 36kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>×</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="3">質量グループ</th><th>着席位置
（または他の場所）</th></tr>
<tr><th>サードシート</th></tr>
<tr><th>左右席</th></tr>
<tr><td>0
（10kg まで）</td><td>×</td></tr>
<tr><td>0+
（13kg まで）</td><td>×</td></tr>
<tr><td>Ⅰ
（9 ～ 18kg）</td><td>×</td></tr>
<tr><td>Ⅱ
（15 ～ 25kg）</td><td>×</td></tr>
<tr><td>Ⅲ
（22 ～ 36kg）</td><td>×</td></tr>
</table>

● 表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			セカンドシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
		（1）	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	×
		（1）	×
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	×
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
		（1）	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
		（1）	×
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取りつけ専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、セカンドシート、またはサードシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 97)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 99)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

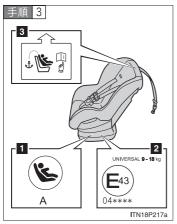
(例 1):体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
(例 2):体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

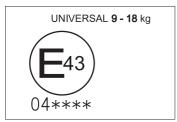
(例 1):質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2):質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）
手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク
UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 105）を示すマーク
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げ、背もたれを直立状態にし、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者、または販売業者におたずねください。

⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

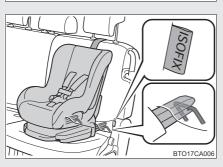
●子供専用シートを使用しないときであってもシートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内の置くことは避けください。

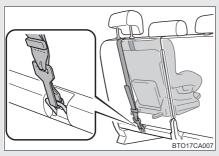
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

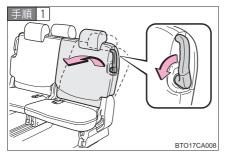
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートに取り付けてください。
取りつけ方法は、必ず商品付属の取扱説明書に従ってください。

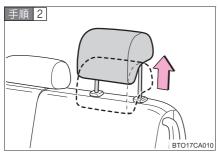
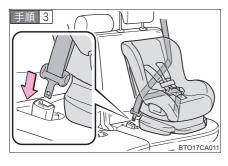
BTO17CA005

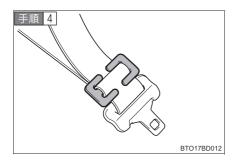
シートベルトによる取り付け
(→P. 106)

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→P. 108)

セカンドシート左右席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています。)

トップテザーアンカー
(→P. 108)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシート左右席に装備されています。

シートベルトで固定する

背もたれの角度を調整する。

ショルダーレバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。

ヘッドレストをいちばん上まであげる。

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

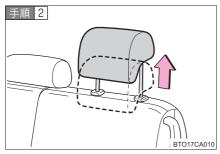
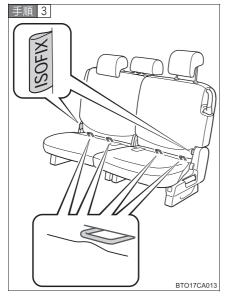
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。
（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

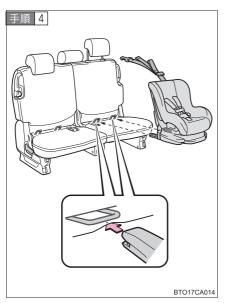
取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

背もたれの角度を調整する。

チャイルドシートが取り付けられる角度まで倒します。

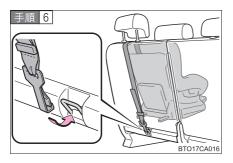
・背もたれが固定されていることを確認します。

ヘッドレストをいちばん上まで上げる。

固定専用バーの位置を確認する。

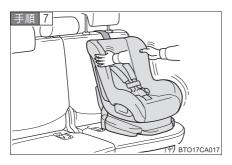
固定専用バーはシートクッションと背もたれのあいだにあります。

チャイルドシートをシートに取り付ける。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。

背もたれの角度を調整する。

チャイルドシートが安定するまで起こします。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

警告

■**チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してセカンドシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせていても、ドア・シート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一、ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているかを確認してください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げ、背もたれを直立状態にして取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

2 運転するときに

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける（→P. 125）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。（→P. 128）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P. 132）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。（→P. 128）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。（→P. 132）

手順 3 シフトレバーを P にする。（→P. 128）

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

手順 4 エンジンを止める。

エンジン スイッチを“ LOCK ”にします。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取りつけ

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠警告

- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 307を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
  フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→P. 129）
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- ハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、全ての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
  やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

警告

- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
  急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

■**滑りやすい路面を運転するときは**

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横滑りするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**停車するときは**

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスが漏れたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を貼りつけないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中または停止直後はマフラーにふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●排気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ブレーキをかけるときは

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■運転中は

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

⚠注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

■タイヤがパンクしたときは

応急用タイヤ装着車

応急用タイヤに交換してください。(→P. 270)

タイヤパンク応急修理キット装着車

タイヤの損傷の程度を確認してください。

- 修理可能な場合は、応急修理してください。(→P. 282)
- 修理不可能な場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスアクスル、トランスファー(4WD 車)、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト(4WD 車)、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

■ エンジンのかけ方

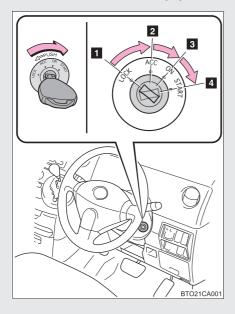
手順 1 正しい運転姿勢（→P. 85）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する。

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏む。

手順 5 エンジン スイッチを“ START ”の位置にまわす。

■ エンジン スイッチの位置

1 “ LOCK ” (OFF)

- ステアリングロックがかかります。
- シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

2 “ ACC ”

アクセサリーコンセントなどの電装品が使用できます。

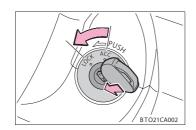
3 “ ON ”

すべての電装品が使用できます。

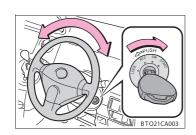
4 “ START ”

エンジンが始動できます。

知識

■キーを“ ACC ”から“ LOCK ”にまわすには

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 2 キーを押し込みながら “LOCK” まで回す。

■ステアリングロックを解除するには

ステアリングを左右に動かしながら、エンジン スイッチをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ ACC ”から“ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると、警告音が鳴ります。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“ LOCK ”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジンを切り、“ ACC ”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ON ”にしたまま長時間放置しないでください。

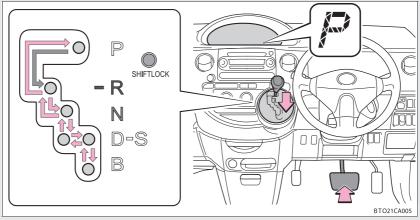
■エンジンを始動するとき

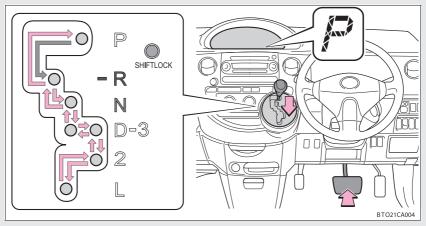
- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

FF 車

← エンジン スイッチが“ ON ”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

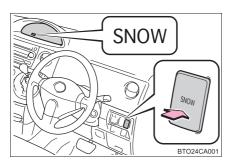
4WD 車

← エンジン スイッチが“ ON ”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	FF 車	4WD 車
P	駐車またはエンジン始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※	
S	坂道走行	
B	急な下り坂走行	
3		坂道走行
2		下り坂走行
L		急な下り坂走行

※　燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

SNOW スイッチ（FF 車）

BTO24CA001

ON/OFF

スノーモードにすると、メーター内の SNOW 表示灯が点灯します。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 298

■スノーモードについて（FF 車）

●エンジンの出力をコントロールし、雪道などすべりやすい路面での発進に適しています。

●エンジン スイッチが“ ON ”のとき使用できます。

●エンジン スイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にすると解除されます。

■坂道を走行しているときは

●車両が下り坂を走行していると判断したときは、自動的にシフトダウンしエンジンブレーキがかかることがあるため、エンジン回転数が上昇することがあります。

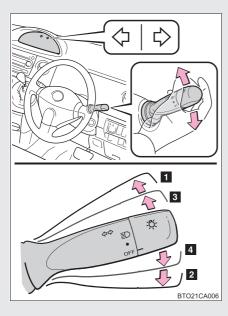
●運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なギヤ段切りかえを行います。（4WD 車）

・シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。（シフトレバーを D 以外にすると、機能が解除されます。）

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

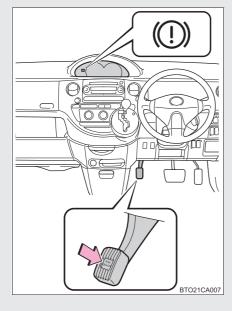
知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

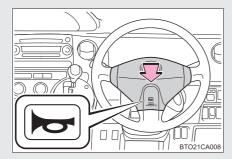
■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 154）の記載を参照してください。

警告

■走行前の注意

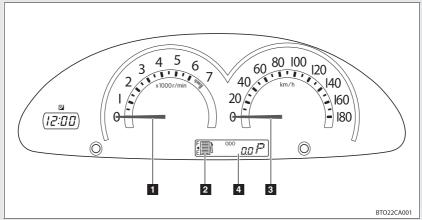
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの [ホーンマーク] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

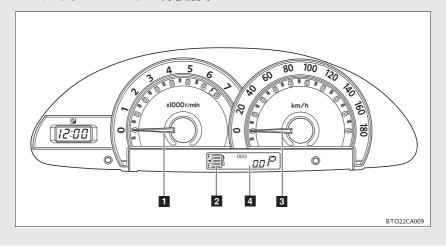
知識

■ハンドルの位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 73）

計器類

オプティトロンメーター装着車

オプティトロンメーター装着車はエンジン スイッチを “ ON ” にするとメーターが点灯します。

オプティトロンメーター非装着車

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 燃料計

燃料残量を示します。

3 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

4 情報表示

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

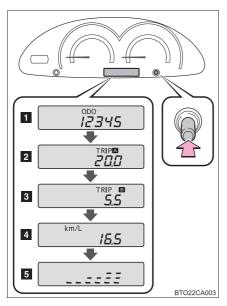
● 平均燃費

・ トリップ A を 0 にリセットしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。
・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● メーター照度調整画面（オプティトロンメーター装着車）

メーター照度の明るさを調整できます。

表示切りかえボタン

ボタンを押すごとに以下のように切りかわります。

1 オドメーター

2 トリップメーターA※1

3 トリップメーターB※1

4 平均燃費

5 メーター照度調整画面※2

※1 長押しで0にもどります。

※2 長押しで照度を調整できます。

知識

■平均燃費について

バッテリーとの接続が断たれたときは、「0.0km/L」が表示されます。

■メーター照度調整画面について（オプティトロンメーター装着車）

車幅灯点灯時に、表示されます。

■メーター照度の調整について（オプティトロンメーター装着車）

- 4段階で明るさのレベルを調整することができます。
- 最大照度にすると、車幅灯を点灯させたときメーター照明は減光されません。

注意

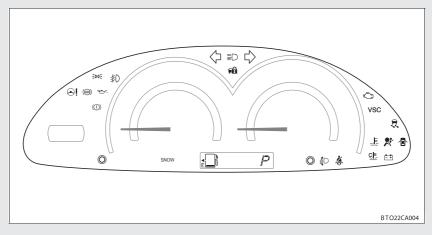
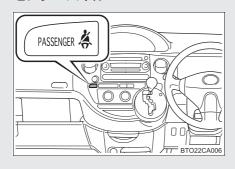
■**エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。

●水温警告灯が赤色に点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 304）

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

メーター

センターパネル

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→P. 131）

尾灯表示灯*（→P. 141）

※ 2
水温表示灯

※ 1
SNOW
SNOW 表示灯*
（→P. 129）

※ 1
（点滅）
スリップ表示灯*
（→P. 150）

セキュリティ表示灯*
（→P. 84）

ヘッドライト
上向き表示灯（→P. 141）

フロントフォグライト
表示灯*（→P. 144）

シフトポジション表示灯（→P. 128）

※ 1 作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 2 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 266)

※作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。
点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

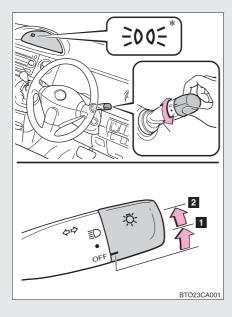
⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

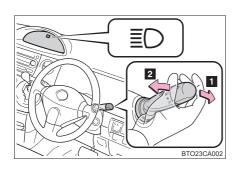
ABS や SRS エアバックなどの安全装置の警告灯が、エンジン スイッチを“ ON ”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

1 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明*を点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

ハイビームにする

1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切りかえ

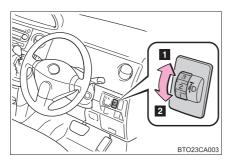
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどるまたは消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	FF 車	4WD 車
運転者	なし	0	0
運転者と助手席乗員	なし	0	0
運転者と助手席、およびサードシートに 2 名乗車	なし	2	2
全乗員	なし	4	3
全乗員	ラゲージルーム満載時	4	3
運転者	ラゲージルーム満載時	5	4

知識

■ライト消し忘れ警告ブザー

ライトスイッチが ● または ≣D の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（ピーという連続音）が鳴ります。

■オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドライト装着車）

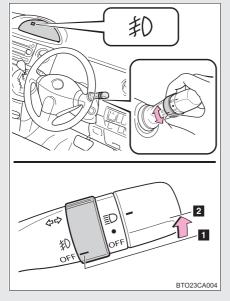
通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ*

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。

1 消灯

2 フォグライト点灯

知識

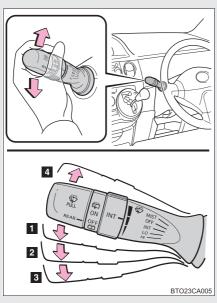
■点灯条件

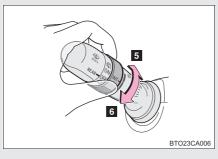
ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

INTを選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

BTO23CA005

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

BTO23CA006

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）
6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

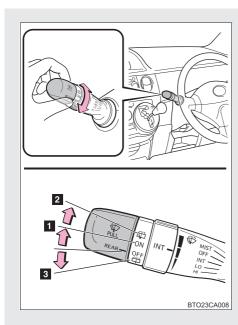
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

1 低速作動

2 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

3 ウォッシャー液を出す

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）*

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

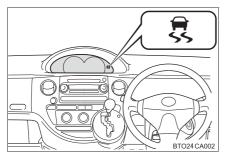
■ TRC（トラクションコントロール）*

すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

VSC、TRC が作動しているとき

車両が横すべりしそうになったとき、タイヤが空転したときは、VSC、TRC の作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

知識

■ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

  ・車体やハンドルに振動を感じる
  ・車両停止後もモーター音が聞こえる
  ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

警告

以下の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

●雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。(→P. 315)
異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ・運転席足元
  - ・助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
  - ・フタのない小物入れ / トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- ●荷物を積み過ぎないでください。
- ●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください（タイヤについて：→P. 220）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷がついているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示に従ってください。

・ 安全に作業できる場所で行う
・ 前 2 輪に取り付ける
・ タイヤチェーンに付属の取扱書に従う
・ 取りつけ後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締めなおしを行う

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■**フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

マニュアルエアコン*

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコンの設定

手順 1 風量を調節するには、風量調整ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす。

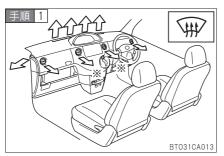
送風をやめるときはダイヤルを OFF の位置に合わせてください。

手順 2 温度設定を変更するには、温度調整レバーを右（暖）か左（冷）に動かす。

A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

手順 3 吹き出し口を切りかえるには、吹き出し口切りかえダイヤルをまわし吹き出し口を選ぶ。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

吹き出し口切りかえダイヤルを

の位置にする。

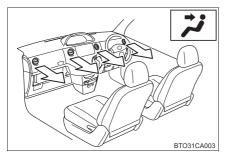
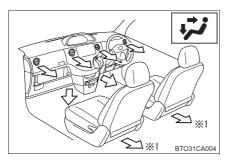
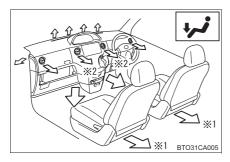
内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。

※：温度調整レバーをいちばん左（低温側最大）およびその近くにしたとき送風されます。

手順 2 状況に応じて次の操作を行う。

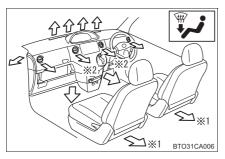
- 風量調整ダイヤルで風量を調整する
- 温度調整レバーで温度を調整する
- 除湿機能が作動していないときは、A/C を押して作動させる

風量を強くし、送風温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

吹き出し口と送風について

上半身に送風

上半身と足元に送風

※ 1：寒冷地仕様車のみ

足元に送風

※ 1：寒冷地仕様車のみ

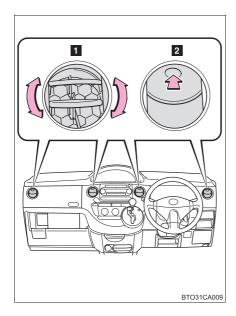
※ 2：温度調整レバーをいちばん左（低温側最大）およびその近くにしたとき送風されます。

足元に送風・ガラスの曇りを取る

※ 1：寒冷地仕様車のみ

※ 2：温度調整レバーをいちばん左（低温側最大）およびその近くにしたとき送風されます。

外気導入・内気循環を切りかえるには

内外気切りかえレバーを動かす。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

フィンを動かして調整します。

2 吹き出し口の開閉

開けるときはフィンのくぼみ部分を押します。
閉めるときはフィンを押し下げます。

知識

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内気循環・外気導入について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■外気温度が0℃以下のとき

A/C を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出し口のため、温度調節レバーの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■エアコンフィルターについて

→P. 253

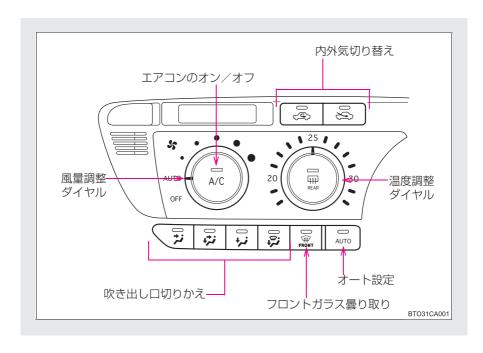
警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは 、吹き出し口切りかえダイヤルを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

オートエアコン*

オートエアコンを使うとき

手順 1 風量調整ダイヤルを AUTO にする。

風量が自動で調整されます。

手順 2 [AUTO] を押す。

吹き出し口が自動で調整されます。

手順 3 温度設定を変更するには、温度調整ダイヤルを右（暖）か左（冷）にまわす。

手順 4 [A/C] を押す。

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お好みの設定で使うとき

手順 1 風量調整ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす。

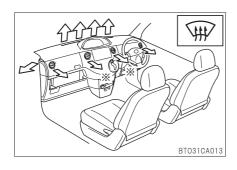
風量は 5 段階に調整できます。

送風を止めるときは OFF にします。

手順 2 温度設定を変更するには、温度調整ダイヤルを右（暖）か左（冷）にまわす。

手順 3 吹き出し口を切り替えるには、各吹き出し口切りかえスイッチを押す。

選択されたスイッチの作動表示灯が点灯します。

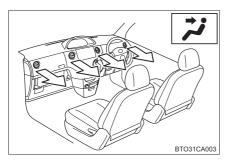
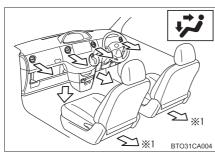
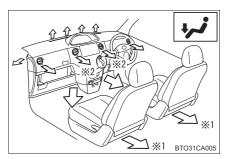
フロントウインドウガラスの曇りを取るには

FRONT を押す

除湿機能が作動します。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に切りかわる場合もあります）
風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度

 を押すと前のモードにもどります。

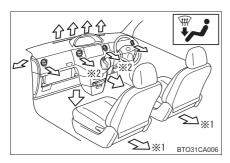
※：温度調整ダイヤルをいちばん左（低温側最大）およびその近くにしたとき送風されます。

吹き出し口と送風について

上半身に送風

上半身と足元に送風

※ 1：寒冷地仕様車のみ

足元に送風

※ 1：寒冷地仕様車のみ

※ 2：温度調整ダイヤルをいちばん左（低温側最大）およびその近くにしたとき送風されます。

足元に送風・ガラスの曇りを取る

※ 1：寒冷地仕様車のみ

※ 2：温度調整ダイヤルをいちばん左（低温側最大）およびその近くにしたとき送風されます。

外気導入・内気循環を切りかえるには

［外気導入スイッチ］、または［内気循環スイッチ］を押す

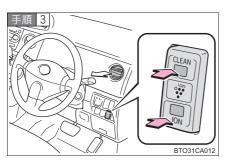
［外気導入スイッチ］を押すと外気導入、［内気循環スイッチ］を押すと内気循環が切りかわります。選択されている側の作動表示灯が点灯します。

プラズマクラスター® を使うには*

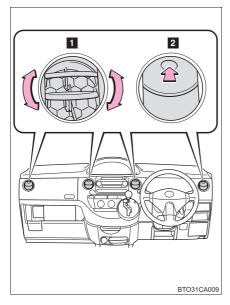
手順 1 風量調整ダイヤルをまわし、ファンを作動させる。

手順 2 吹き出し口を切りかえスイッチを押し、［上半身］または［上半身・足元］にする。

［足元］、［足元・デフロスター］以外のときも送風されますが、高い効果は得られません。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

CLEAN 側、または ION 側を押す。

クリーンモードでは青色の、イオンコントロールモードでは緑色の表示灯が点灯します。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

フィンを動かして調整します。

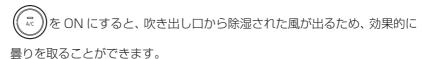
2 吹き出し口の開閉

開けるときはフィンのくぼみ部分を押します。
閉めるときはフィンを押し下げます。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO にした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、

を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内気循環・外気導入について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■プラズマクラスター® について*

●運転席側吹き出し口付近で静電気を感じたり、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

●プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

●クリーンモードでは、同量のプラスイオンとマイナスイオンを放出して、車内に浮遊するカビ菌の活動を抑制します。

●イオンコントロールモードでは、マイナスイオンの比率を高く放出して空気中のイオンバランスを整えます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→P. 253

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

■プラズマクラスターについて

●プラズマクラスター® は、高電圧を利用しています。危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●運転席側吹き出し口付近にスプレーを噴霧したり、棒などの異物を挿入したりしないでください。故障や感電の原因となります。

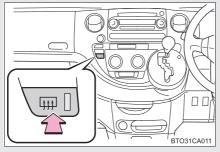
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

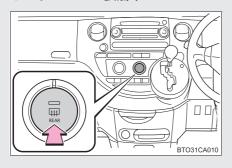
リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

マニュアルエアコン装着車

オン／オフ

リヤウインドウデフォッガーが作動中にもう一度押すと停止します。

・寒冷地仕様車は約 15 分で自動的にオフになります。

オートエアコン装着車

オン／オフ

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的にオフになります。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■フロントワイパーデアイサーについて（フロントワイパーデアイサー装着車）

- フロントワイパーデアイサー装着車は、リヤウインドウデフォッガーをオンにするとフロントワイパーデアイサーも同時に作動します。
- フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的にオフになります。
- フロントワイパーデアイサーはフロントウインドウガラスの下部および、運転席側フロントピラー部の表面を暖めてガラスとワイパーブレードの凍結を防止します。

警告

■フロントワイパーデアイサー作動中の警告（フロントワイパーデアイサー装着車）

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

オーディオの種類

CD プレーヤー、AM/FM ラジオ＊

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 176
CD プレーヤーの使い方	P. 178
快適に聞くために	P. 183

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえるときがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

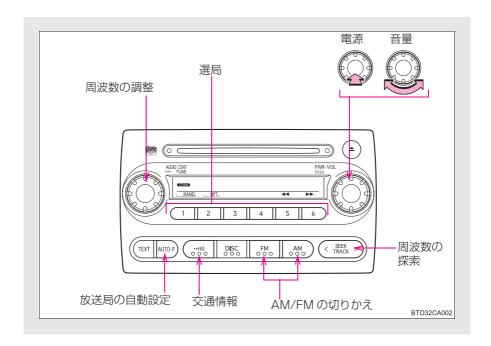
■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオ＊の使い方

放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1 （ダイヤル）をまわして、または SEEK TRACK の " ＞ "（高い周波数）または " ＜ "（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す。

手順 2 記憶させたいスイッチ 1 ～ 6 を " ピッ " と音が鳴るまで長押しする。

■ 自動設定

AUTO·P を " ピッ " と音が鳴るまで長押しする

受信感度の良い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると " ピッピッ" と音が鳴ります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

交通情報を受信する

を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ について

●新車時は、1620kHz にセットしてあります。

●AM ラジオモードのとき を " ピッ" と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を に記憶させることができます。ただし、バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz にもどります。

● を 押して、ラジオを受信しているときは、SEEK TRACK ・ ・ 1 ～ 6 ・ AUTO·P を操作しても、周波数は切りかわりません。

■バッテリーとの接続が断たれたときは

1 ～ 6 に設定されていた放送局が消去されます。

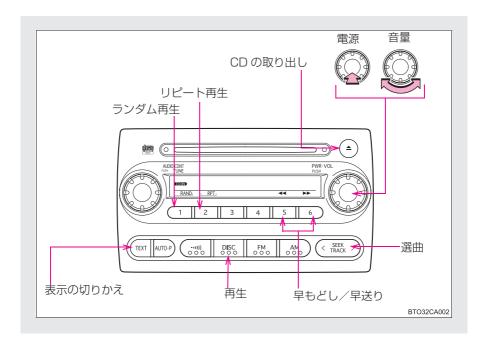
■受信感度について

●アンテナの位置がそのときどきで変わるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

● AUTO·P を使っているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

●ラジオ用アンテナはルーフ後方にあります。アンテナは前後に倒して格納することができます。(→P. 184)

CD プレーヤー＊の使い方

電源
音量
CD の取り出し
リピート再生
ランダム再生
選曲
表示の切りかえ
再生
早もどし／早送り
BTO32CA002

CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

を押して CD を取り出す

曲を選ぶ

SEEK TRACK の " ＞ "（次曲）または " ＜ "（前曲）を押して聞きたい曲の番号を表示させる

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

早もどし、早送りする

早送りするには、 5 （早もどし）または 6 （早送り）を押し続ける

ランダム（RAND）再生する

1 （RAND）を押す

もう一度押すまで無作為な順序で曲が再生されます。

リピート（RPT）再生する

2 （RPT）を押す

表示を切りかえる

TEXT を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。
曲番および経過時間 → CD タイトル → 曲名

知識

■**表示について**

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、 TEXT を 1 秒間以上押し続けることにより、13 文字以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。

TEXT をもう一度 1 秒間以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■**ランダム再生、リピート再生の解除**

もう一度 1 （RAND）または 2 （RPT）を押します。

■エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な CD

以下のマークのついたディスクが再生できます。記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。また、ファイナライズ処理されていないディスクは再生できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生が停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷つき使用できなくなるおそれがあります。

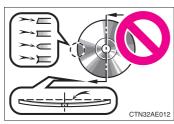
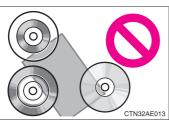
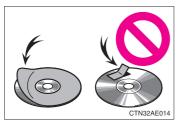
■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

⚠ 注意

■使用できない CD、アダプター

以下のようなCDや 8cm CD アダプター、Dual Discを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

●直径12cm または8cmの円形以外のCD

●低品質または変形している CD

●記録部分が透明または半透明の CD

●セロハンテープ、シール、CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

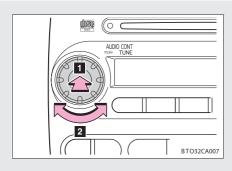
⚠ 注意

■CD プレーヤーの取り扱いについて

以下のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

- CD 挿入口に CD 以外のものを入れない
- CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない
- CD は直射日光を避けて保管する
- CD プレーヤーを分解しない
- 変形したディスクを使用しない

- 一度に２枚以上の CD を挿入しない

快適に聞くために

1 ツマミを押してモードを表示させる

2 ダイヤルをまわして以下の設定を変更する

● 音質と音量バランス
(→P. 183)

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

設定を変更するには

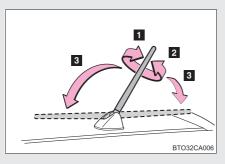
■ 音質モードの切りかえ

 を押すごとに次のように切りかわります。

BAS → TRE →FAD → BAL

■ 音質の調整

 をまわして音質のレベルを調整します。

音質モード	表示	レベル	左にまわす	右にまわす
低音	BAS	-5 ～ 5	弱	強
高音	TRE	-5 ～ 5		
前後音量バランス	FAD	R7 ～ F7	うしろ側大	前側大
左右音量バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大

アンテナ

1 取りはずす

2 取り付ける

3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立ててください。

注意

■自動洗車機にかけるときは

アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。

■アンテナの損傷を防ぐために

以下のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■洗車機などアンテナを取りはずしたときは

アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおり取り付けてください。

室内灯一覧

BTO33CA001

1 マップライト（→P. 186）
2 ルームライト（→P. 187）
3 ラゲージルームライト（→P. 187）

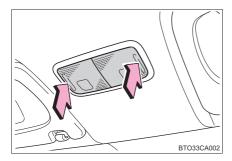
知識

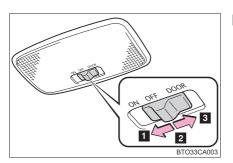
■バッテリーあがりを防ぐために

ルームライト、ラゲージルームライトのスイッチがドア連動のときに、ドア開状態で各部照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■イルミネーテッドエントリーシステム

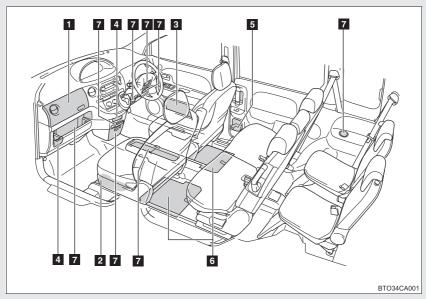
ルームライト、ラゲージルームライトのスイッチがドア連動のとき、エンジンスイッチにより、各部照明が自動的に点灯、消灯します。

マップライト

点灯 / 消灯

ルームライト、ラゲージルームライト

1 点灯

2 消灯

3 ドア連動

収納装備一覧

1 アッパーボックス
2 助手席シートアンダートレイ*
3 ドアポケット
4 カップホルダー
5 ボトルホルダー
6 フロアボックス
7 小物入れ*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

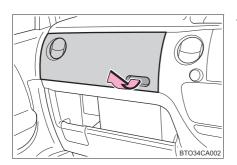
警告

■**収納装備に放置してはいけないもの**

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、以下のようなことが起きることがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れをおこす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

アッパーボックス

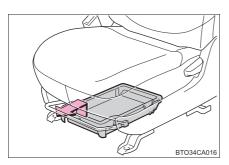
BTO34CA002

フタを持ち上げる

警告

■走行中の警告

アッパーボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

助手席シートアンダートレイ*

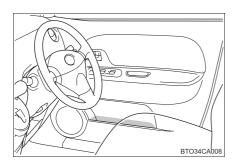
BTO34CA016

トレイを上げて、前に引き出す

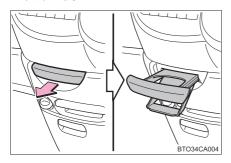
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

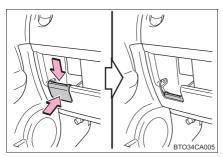
警告

■走行中の警告

フロントシートの下（助手席シートアンダートレイ内を除く）にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因となります。

ドアポケット

カップホルダー

運転席左側

カップホルダーを引いて出す

アッパーボックス下側

フタの下側を押して、フタを下げる

フタを上げているときは、小物入れとして使用することもできます。

警告

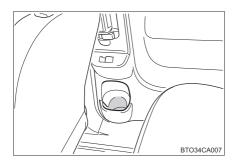
■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲みものにはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

カップホルダーを必ず収納、またはフタを上げてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

ボトルホルダー

BTO34CA007

知識

■ボトルホルダーについて

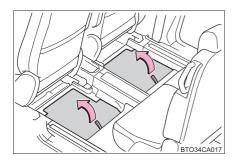
- ●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

フロアボックス

BTO34CA017

ストラップを引いて開ける

知識

■ **フロアボックスについて**

セカンドシート足元にあります。

■ **タイヤパンク応急修理キットについて**

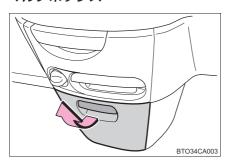
タイヤパンク応急修理キット装着車は、助手席側のフロアボックスにタイヤパンク応急修理キットが格納されています。

警告

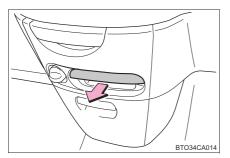
■ **走行中の警告**

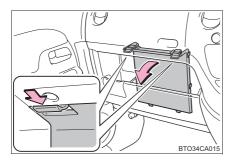
フロアボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

小物入れ

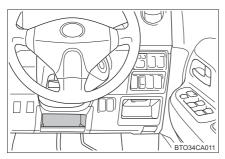
マルチボックス

レバーを引いて開ける

取りはずすときは、ボックスを持ち上げてはずします。

コインケース

フタを引き出す

車検証入れ

ツメを 2 カ所押しながら手前に引く

取りはずすときは、ボックスを持ち上げてはずします。

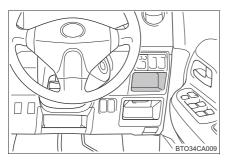
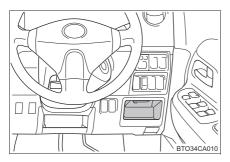
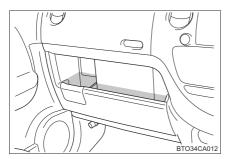
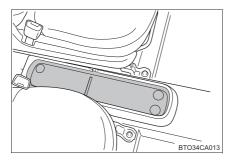
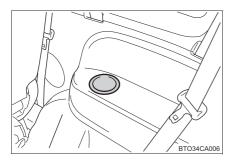
運転席アンダートレイ

運転席サイドトレイ（パワースライドドア非装着車）

BTO34CA009

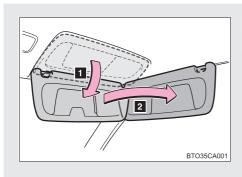
運転席サイドトレイ

BTO34CA010

助手席ワイドフリーラック

BTO34CA012

フロアトレイ

デッキサイドポケット

⚠警告

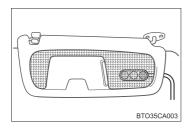
■収納してはいけないもの

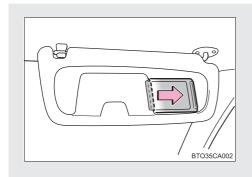
- トレイ内に転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- フタつきや開閉できる小物入れは必ず閉じてください。
  急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コインケースなどの小物入れは絶対に灰皿として使用しないでください。タバコの火などにより車両火災につながるおそれがあり危険です。

サンバイザー

1 下ろす

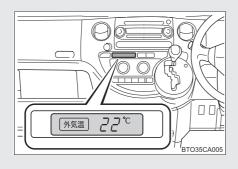
2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

知識

■シースルーサンバイザー

メッシュ部から光が入ってまぶしいときは、サンバイザーの角度をかえることで遮光することができます。

バニティミラー

外気温度計*

-30 ℃から 50 ℃のあいだで表示されます。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

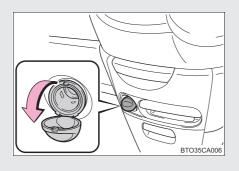
■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

アクセサリーソケット

使用する電気製品は、必ず DC12 V で合計が最大 10 A（最大消費電力 120W）以下の電気製品を使用してください。

知識

■使用条件

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

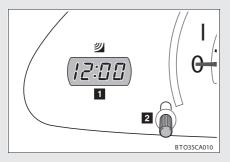
■ヒューズが切れるのを防ぐために

必ず DC12V で最大 10A（最大消費電力 120W）を超えないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

時計

日本標準電波を受信することにより自動的に時刻修正が行われ、正しい時刻を表示させることができる時計です。

1 時計
2 クロックボタン

時刻を手動で設定する

電波を受信できないときに時刻を修正したときは、以下の手順で時刻の設定をすることができます。
なお、設定後に再び電波を受信すると、電波により自動修正された時刻を表示します。

手順 1 クロックボタンを約 1 秒以上押す。

“ 分 ” 表示が点滅し、時刻調整画面に切りかわります。

手順 2 “ 分 ” を設定する。

- クロックボタンを押すごとに、1 分ずつ進みます。
- クロックボタンを押し続けると、早送りされます。

手順 3 約 5 秒間放置すると、“ 時 ” 表示が点滅し、“ 時 ” の設定画面に切りかわるので、“ 時 ” を設定する。

- クロックボタンを押すごとに、1 時ずつ進みます。
- クロックボタンを押し続けると、早送りされます。

手順 4 設定が終了したら、約 5 秒以上放置する。

現在時刻表示にもどります。

時報に合わせる

時報と同時にクロックボタンを押して、すぐに手を離します。

0 ～ 29 分は切り下げられます。
30 ～ 59 分は切り上げられます。

・ 正しい時間を表示させているとき
1：00 ～ 1：29→1：00
1：30 ～ 1：59→2：00
・ 正しい時間をずらして表示させているとき（5 分進めている場合）
1：00 ～ 1：29→1：05
1：30 ～ 1：59→2：05

正しい時刻をずらして表示させたいとき

受信した時刻を常に補正して表示させることができます。

手順 1 クロックボタンを約 6 秒以上押す。

表示が次のように切りかわります。

・ 現在時刻表示 → " 分 " 表示の点滅 → 最終修正内容確認画面

手順 2 約 6 秒以上放置する。

・ " 分 " 表示が点滅し、補正時間の設定画面に切りかわります。
・ すでに補正時間が設定されているときは、その時間の表示が点滅します。

手順 3 表示が点滅中に、補正したい時間を設定する。

設定のしかたについては、「時刻を手動で設定する」の 手順 2、手順 3 の手順で行います。

（例）5 分進めるには「0：05」、5 分遅らせるには「11：55」にします。

手順 4 設定が終了したら、約 5 秒以上放置する。

制限モード（電波時計）として使用するには

表示時刻のずれが約 10 分未満のときに電波を受信すると、正しい時刻に修正します。

手順 1 クロックボタンを約 12 秒以上押す。

修正履歴が表示され、制限モードに切りかわります。

手順 2 約 21 秒以上放置する。

通常の時計として使用するには

手順 1 クロックボタンを約 18 秒以上（制限モード時は約 12 秒以上）押す。

表示が次のように切りかわり、電波受信機能が停止します。

・ 現在時刻表示 → “ 分 ” 表示の点滅 → 最終修正内容確認画面 → 「OF」

手順 2 約 6 秒以上放置する。

■ もとにもどすには

再びクロックボタンを約 12 秒以上押し続ける

最終修正内容確認画面に切りかわり、電波時計にもどります。

知識

■電波時計について

● 電波時計は、駐車しているとき（エンジン スイッチが “ LOCK ” のとき）に電波を受信して時刻を自動修正します。

・ 走行中は、電波を受信することはできません。

● 電波障害により誤った時刻を表示することがあります。その場合、制限モードで使用することをおすすめします。

● 電波受信機能を停止して、通常の時計としても使用できます。

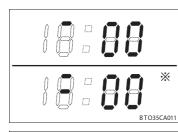
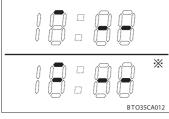
■使用条件

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

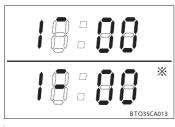
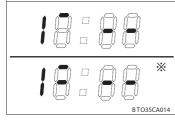
■時刻の最終修正内容について

電波時計として使用しているとき、現在表示されている時刻が電波により自動で修正されたか、手動で修正されたかを確認することができます。

●確認するときは、クロックボタンを約 6 秒以上押します。

- ・表示が次のように切りかわり、最終修正内容確認画面になります。
  現在時刻表示 → “ 分 ” 表示の点滅 → 最終修正内容確認画面
- ・最終修正内容確認画面を表示できるのは、約 6 秒間です。約 6 秒以上経過すると、時刻を補正するモードに切りかわります。

自動修正履歴

- ・過去 6 日間以内に、電波による自動修正が行われたことを示します。

- ・過去 6 日間以内に、電波による自動修正が行われなかったことを示します。

※は制限モード時の表示です

手動修正履歴

・過去 6 日間以内に、電波による自動修正が行われたあとに、手動で時刻調整が行われたことを示します。

・過去 6 日間以内に、電波による自動修正が行われず、手動で時刻調整が行われたことを示します。

※は制限モード時の表示です

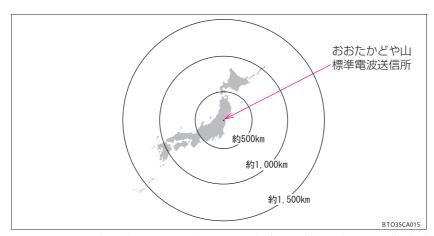
●現在時刻表示にもどすときは、最終修正内容確認画面のまま約 15 秒以上放置することによって、現在時刻表示にもどります。

■補正時刻のリセットについて

電波受信機能を停止させると、電波を受信しているとき設定した補正時刻はリセットされます。

■日本標準時電波について

●日本標準時電波は、標準電波送信所（福島県おおたかどや山　標準電波送信所）から発信されています。

・送信所より遠方の地域や気象条件などによっては、電波を受信しにくくなることがあります。

●次のような電波を受信しにくい場所では、時刻の自動修正ができない場合があります。

・地下駐車場・立体駐車場などの屋根の下に駐車しているとき
・ビルの谷間や影になる場所に駐車しているとき

■バッテリーを再接続したときは

お好みの時刻に時間を調整されていたときは、設定されていた時間は解除されます。

アームレスト*

アームレストをいちばん下まで下げる。

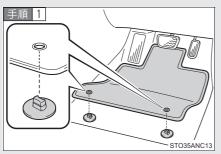
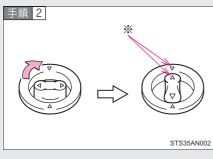
注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む。

固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する。

※△マークを必ず合わせてください。

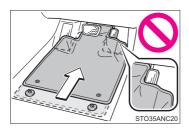
固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■**運転席にフロアマットを敷くときは**

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■**運転する前に**

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

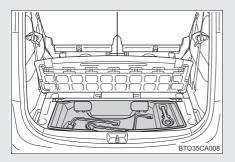
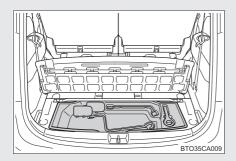
ラゲージルーム内装備

■ デッキアンダートレイ*

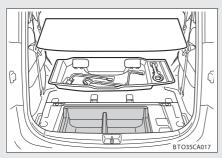
FF 車のタイヤパンク応急修理キット装着車

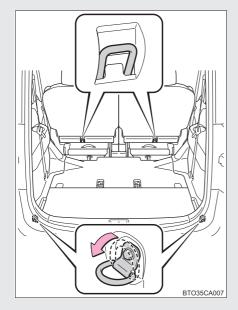
BTO35CA008

FF 車の応急用タイヤ装着車、4WD 車のタイヤパンク応急修理キット装着車

BTO35CA009

■ デッキボックス

FF 車のタイヤパンク応急修理キット装着車

BTO35CA017

デッキアンダートレイを取りはずす。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ デッキフック

フックを使って荷物を固定することができます。

知識

■デッキフックについて

セカンドシート後部のフックは、子供専用シート固定用のトップテザーアンカーです。トップテザーアンカーとして使用する場合は、P. 108 を参照してください。

警告

■デッキフックについて

必ずもとの位置にもどしておいてください。

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う。

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボディコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施行された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- 洗車する前に、ドアミラーを格納してください。また、給油口がしっかりと閉まっていることを確認してください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 66)

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→P. 87)電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

■シート周辺の注意

室内を掃除するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

革の部分の損傷・消耗を避けるために、以下のことをお守りください。

●革についたほこりや砂はすぐに取り除く。

●直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
フロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命を延ばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

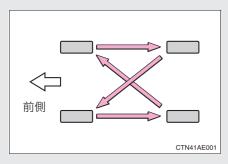
■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

標準タイヤ

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm²)	
	前輪	後輪
175/70R14 84S	FF 車：230 (2.3) 4WD 車：220 (2.2)	
185/60R15 84H	220 (2.2)	

スペアタイヤ

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm²)
T105/70D16 87M	420 (4.2)
T125/70D16 96M	420 (4.2)

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

●タイヤは全て同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。

●ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。

●サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

■異常があるタイヤの使用禁止

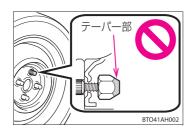
異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車が横すべりする

●車の本来の性能（燃費、車両の方向安定性、制動距離など）が発揮されない

警告

■**タイヤ交換時の注意**

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

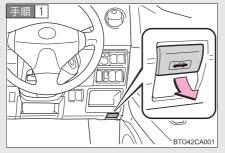
■**走行中に空気漏れが起こったら**

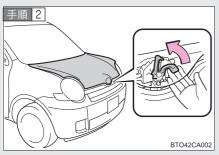
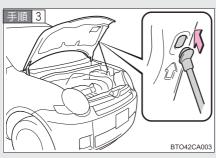
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■**悪路走行に対する注意**

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける。

ボンネットステーをステー穴に挿し込む。

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

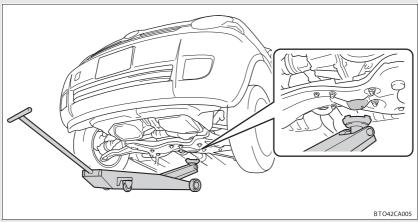
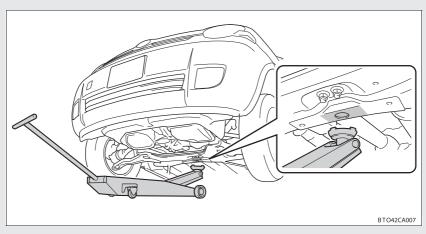
■ボンネットへの損傷を防ぐために

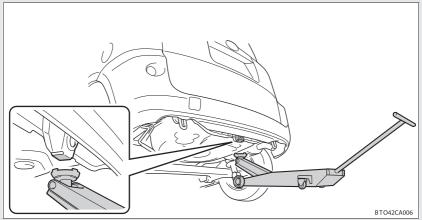
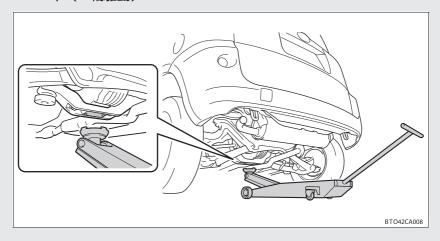
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

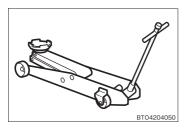
■ フロント側

FF 車（前輪駆動）

4WD 車（4 輪駆動）

■ リヤ側

FF 車（前輪駆動）

4WD 車（4 輪駆動）

警告

■**車両を持ち上げるときは**

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。

BT04204050

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取り扱い説明書を十分に確認の上、使用してください。

●車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。

●ガレージジャッキおよび自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。

●平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。

●ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しく取り付けてください。
ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。

●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かないでください。

電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

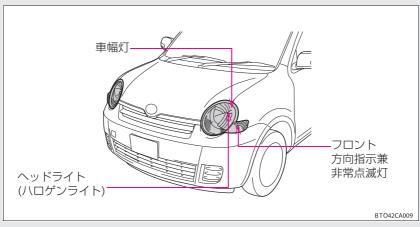
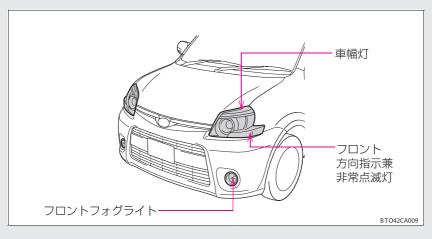
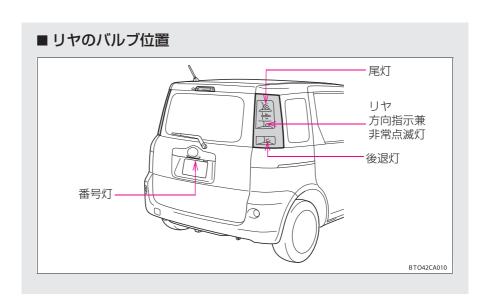
■ 電球の用意

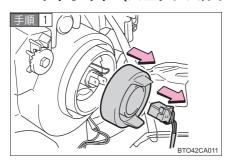
切れた電球の W 数を確かめてください。（→P. 316）

■ フロントのバルブ位置

フロントフォグライト非装着車

フロントフォグライト装着車

■ リヤのバルブ位置

電球交換のしかた

■ ヘッドライト（ハロゲンバルブ*）

コネクターとゴムカバーを取りはずす。

止め金をはずし、電球を取りはずす。

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ フロントフォグライト*

手順 1 ボルトとクリップを取りはずし、フェンダーライナーをめくる。

BTO42CA013

手順 2 ソケットを取りはずす。

BTO42CA014

手順 3 電球を取りはずす。

BTO42CA015

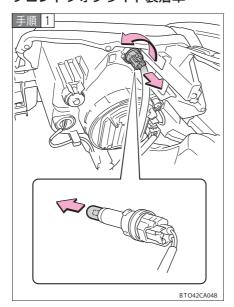
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 車幅灯

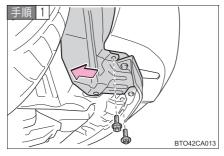
フロントフォグライト非装着車

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

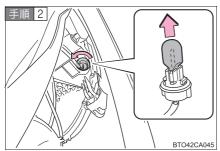
フロントフォグライト装着車

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

手順 2 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

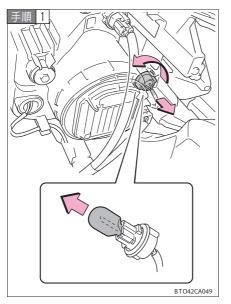
■ フロント方向指示灯兼非常点滅灯

フロントフォグライト非装着車

手順 1

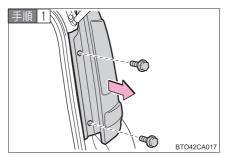
ボルトとクリップを取りはずし、フェンダーライナーをめくる。

手順 2

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

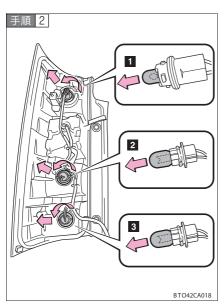
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

フロントフォグライト装着車

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

手順 2 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ 後退灯、尾灯、リヤ方向指示灯兼非常点滅灯

バックドアを開け、ライト本体を取りはずす。

ボルト 2 本をはずし、ライト本体を後方にスライドさせ取りはずします。

手順 2

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

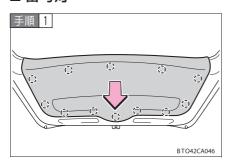
1 尾灯

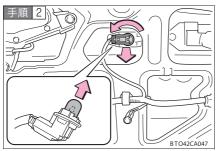
2 リヤ方向指示灯兼非常点滅灯

3 後退灯

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ 番号灯

手順 1

バックドアを開け、内張りを取りはずす。

手順 2

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ● ヘッドライト（ディスチャージヘッドライト）
- ● サイド方向指示兼非常点滅灯
- ● 制動灯
- ● ハイマウントストップライト

知識

■レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- ●レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ●ライト内に水がたまっている

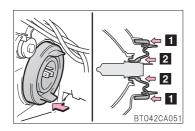
■ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配なかたは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ハロゲンヘッドライト装着車のゴムカバーを取り付けるときは

確実にはめ込まれていることを確認してください。

1 ゴムカバー外周をしっかりとはめ込む

2 ゴムカバー内周（電球周り）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む

■LED ライトについて

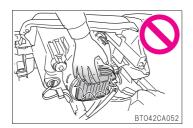
制動灯・ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●プロジェクター式ディスチャージヘッドライト装着車：
ヘッドライト点灯中および消灯直後はヘッドライト裏の金属部が高温となっているため、さわらないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

■**ディスチャージヘッドライトについて**

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 3 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電して、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■**お車の故障や火災を防ぐために**

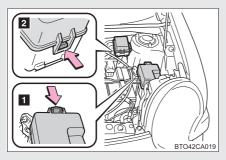
電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

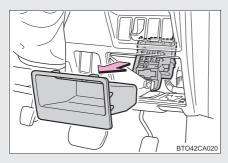
手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする。

手順 2 ヒューズボックスを開ける。

エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

1 ヒューズボックス A

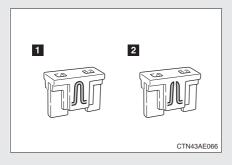
2 ヒューズボックス B ＊

運転席

小物入れを手前に引いてはずす。

ヒューズラベルが、小物入れに表示してあります。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

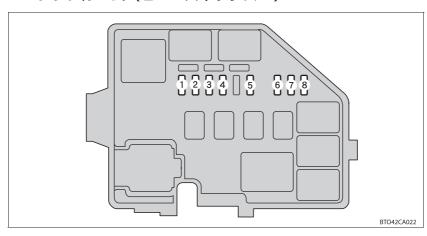
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」（→P. 242）で確認する。

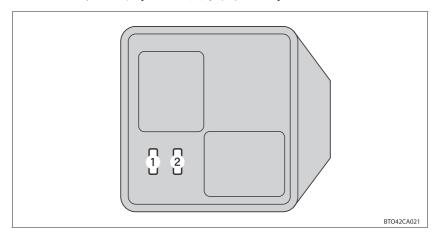
手順 4 ヒューズが切れていないか点検する。

1 正常

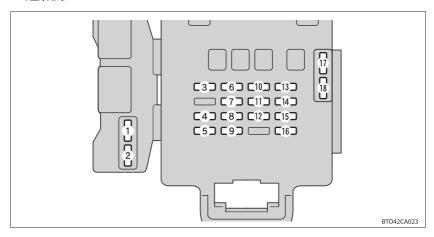
2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（ヒューズボックス A）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	DOME	15 A	オーディオ、室内灯
2	EFI	20 A	EFI システム
3	HORN	15 A	ホーン
4	AM2	30 A	エンジンスイッチ
5	ETCS	10 A	EFI システム
6	H-LP LH/ H-LP LO LH	15 A	ヘッドライト
7	H-LP RH/ H-LP LO RH	15 A	ヘッドライト
8	A/C 2	7.5 A	エアコン

■ エンジンルーム（ヒューズボックス B）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	H-LP HI RH	10 A	ヘッドライト
2	H-LP HI LH	10 A	ヘッドライト

■ 運転席

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	MET	7.5 A	メーター
2	I/UP	7.5 A	EFI システム
3	GAUGE	10 A	後退灯、パワーウインドウ
4	ACC	15 A	アクセサリーソケット、 電動式ドアミラー
5	A.C	7.5 A	エアコン
6	DEF	20 A	リヤウインドウデフォッガー
7	WIPER	20 A	ワイパー＆ウォッシャー
8	ECU-IG	7.5 A	電動ファン、ABS、エアコン
9	DEICER	15 A	フロントワイパーデアイサー
10	D/L	25 A	ドアロック
11	ECU-B	7.5 A	スマートドアロック、 パワースライドドア
12	FOG	15 A	フロントフォグライト
13	TAIL	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯
14	POWER2	20 A	パワーウインドウ
15	HAZ	10 A	非常点滅灯、方向指示灯
16	STOP	10 A	制動灯

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	IG2	15 A	EFI システム
18	ST2	10 A	スターター

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→P. 229)

●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

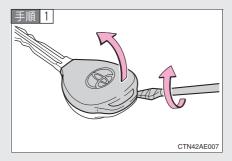
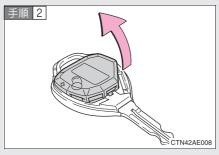
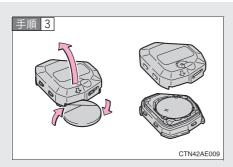
キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR2016（ワイヤレスキー（4 ボタン、3 ボタン、2 ボタン）、パワースライドドアリモコン）、CR1220（ワイヤレスキー（1 ボタン））、CR2032（電子キー）

■ 電池交換のしかた

ワイヤレスキー（4 ボタン）

手順 1

カバーをはずす。

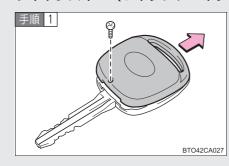
手順 2

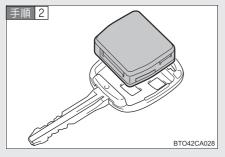
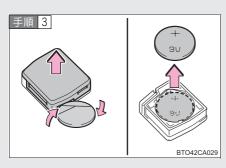
モジュールを取り出す。

コインなどを使って、モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す。

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

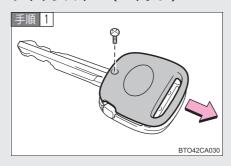
ワイヤレスキー（3 ボタン、2 ボタン）

カバーをはずす。

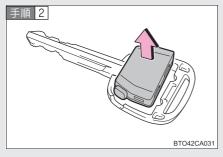
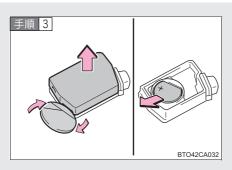
スクリュー（1 本）をはずし、カバーを矢印の方向に押しながら取りはずします。

モジュールを取り出す。

コインなどを使って、モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す。

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

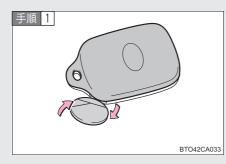
ワイヤレスキー（1 ボタン）

カバーをはずす。

スクリュー（1 本）をはずし、カバーを矢印の方向に押しながら取りはずします。

モジュールを取り出す。

コインなどを使って、モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す。

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

パワースライドドアリモコン

カバーをはずす。

電池を取り出す。

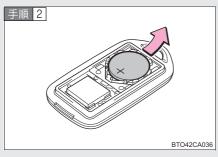
新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

電子キー

手順 1

カバーをはずす。

手順 2

電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

知識

■電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

●スマートドアロック機能、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR2016（ワイヤレスキー（4 ボタン、3 ボタン、2 ボタン)、パワースライドドアリモコン）、ＣＲ1220（ワイヤレスキー（1 ボタン））、CR2032（電子キー）の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告

■取りはずした電池と部品について

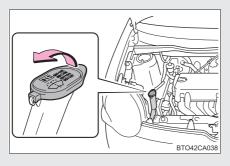
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- ドライバーにテーピングをしたり布きれをあててからはずしてください。
  カバーに傷がつくおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

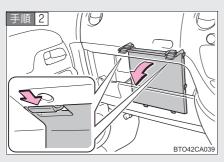
■ウォッシャー液のうすめ方

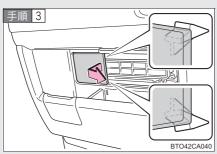
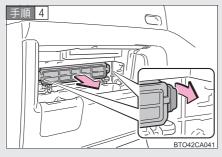
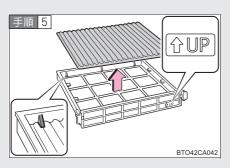
必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする。

車検証入れをはずす。

ツメ 2 カ所を下へ押しながら手前に引いて開き、持ち上げてはずします。

カバーを取りはずす。

フィルターケースを取りはずす。

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する。

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは以下の時期を目安に交換してください。

30,000km[15,000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

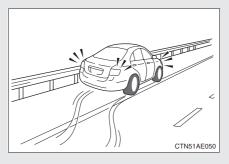
フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

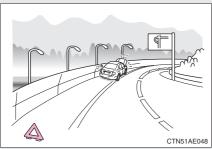
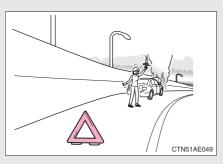
トラブルが起きたら 5

5-1. まず初めに

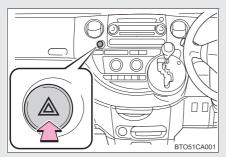
5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

故障したときは速やかに下記の指示に従ってください。

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 257)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)

緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 258)

非常点滅灯

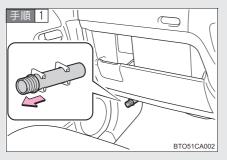
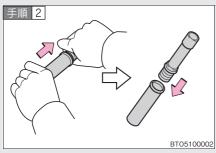
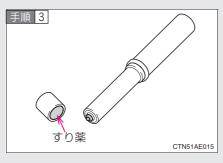
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

助手席足元の発炎筒を取り出す。

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む。

先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。

警告

■**発炎筒が使用できない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■**発炎筒の取り扱いについて**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

●発炎筒は、お子さまにさわらせない

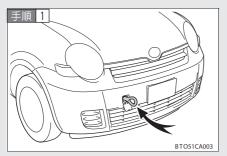
けん引について

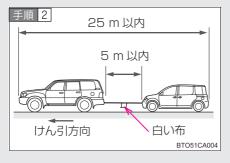
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

車体に傷がつかないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布をつける。

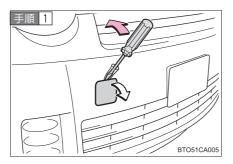
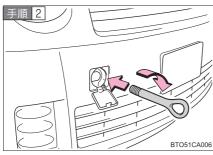
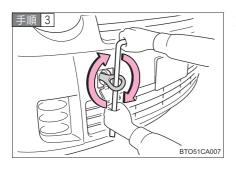
布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける。

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを " ACC " にします。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付けかた

マイナスドライバーとあて布を使ってフタをはずす。

けん引フックを穴に挿しこみ軽く締める。

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける。

知識

■他車をけん引する

リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

■けん引フックの収納位置

→P. 270，283

警告

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがあります。

■車両を運搬するときは

車両を運搬するときは以下のことを必ずお守りください。

- FF 車の場合は前輪、または 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
- 4WD車の場合は必ず4輪接地または4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。

駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

警告

■けん引中の運転について

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●エンジン スイッチを“LOCK”にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■他車をけん引するときは

自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

●ワイヤーロープは使用しない

●速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する

●前進方向でけん引する

●サスペンション部などにロープをかけない

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジン回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転席および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）※** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**
車速が 5km/h を超えると警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 ・充電系統の異常
	油圧警告灯 ・エンジンオイルの圧力異常
	高水温警告灯（赤色点滅時） ・エンジン冷却水温の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットル*の異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS & ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
	パワーステアリング警告灯 ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯＊ ・自動光軸調整システムの異常
VSC	**VSC 警告灯＊** ・VSC システム、TRC システムの異常
（点灯）	**スリップ表示灯＊** ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 （VSC・TRC 作動時は点滅します。→P. 150）

知識

■パワーステアリング警告灯について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める
E （点滅）	**燃料残量警告灯** 燃料の残量（約 6L 以下）	燃料を給油
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）**※ 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

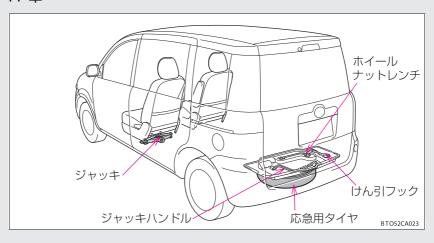
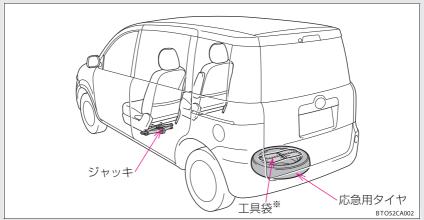
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

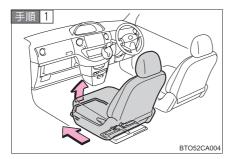
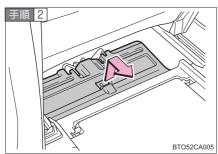
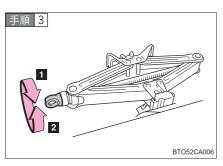
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は、P. 220 をご覧ください。）

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

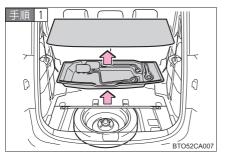
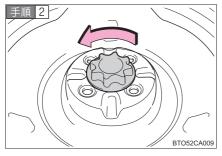
FF 車

4WD 車

※：工具袋の中にジャッキハンドル、ホイールナットレンチ、けん引フックが収納されています。

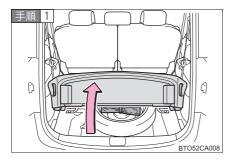
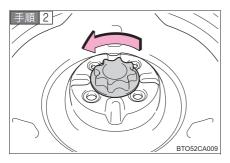
ジャッキの取り出しかた

助手席を前方いっぱいまで移動させる。

カバーを取りはずす。

ジャッキを取り出す。

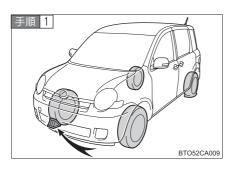
1 締める

2 ゆるめる

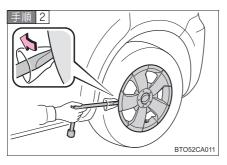
応急用タイヤの取り出しかた

FF 車

デッキボード、デッキアンダートレイをはずす。

止め具をはずし、タイヤを取り出す。

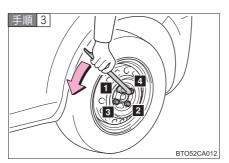
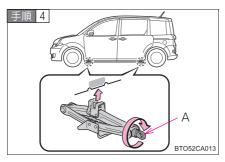
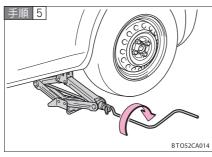
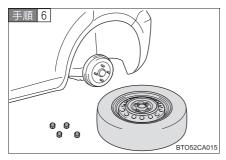
4WD 車

デッキボードを引き起こし、工具袋を取り出す。

止め具をはずし、タイヤを取り出す。

パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする。

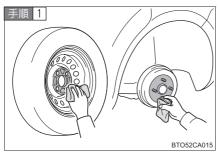
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ホイールキャップをはずす。*

傷がつくのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

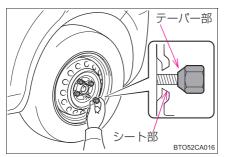
* スチールホイールのみ

ナットを少し(約1回転)ゆるめる。

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

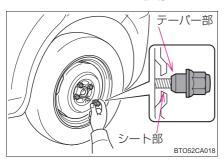
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする。

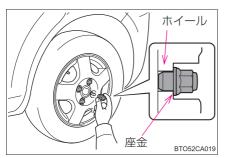
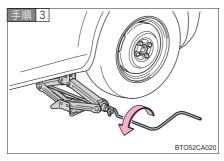
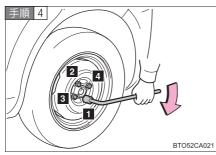
タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れをふき取る。

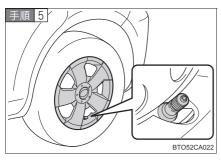
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

スチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす。

アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす。

アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールにあたるまでまわす。

車体を下げる。

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける。

締め付けトルク：
103 N・m (1050 kgf・cm)

ホイールキャップを取り付ける。*

タイヤのバルブ(空気口)に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付ける。

* スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません）

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する。

知識

■応急用タイヤについて

- ●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。
- ●空気圧を必ず点検してください。(→P. 315)

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけががにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ●ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- ●備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ●ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ●ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- ●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■**タイヤ交換について**

ケガを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める

●タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける。

●ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付けてください。（→P. 223）

上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。

■**パワースライドドア装着車のタイヤ交換について**

タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチ（→P. 36）をOFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチを操作したときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

■**応急用タイヤを使用するときは**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください

●同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください

●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください

警告

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS& ブレーキアシスト
- VSC *
- TRC *

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- 4WD システム*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。
また、変形や亀裂など損傷したホイールは使用しないでください。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

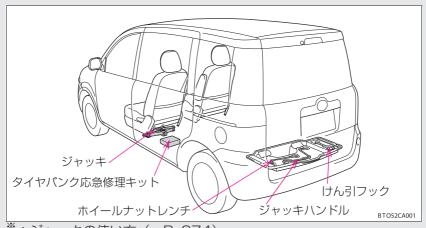
応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪として使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。
タイヤがパンクしたときにタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です。）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P. 285）
タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

■ 応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

■ タイヤパンク応急修理キットと工具、ジャッキの位置

※：ジャッキの使い方（→P. 274）

■ タイヤパンク応急修理キットの内容、各部名称

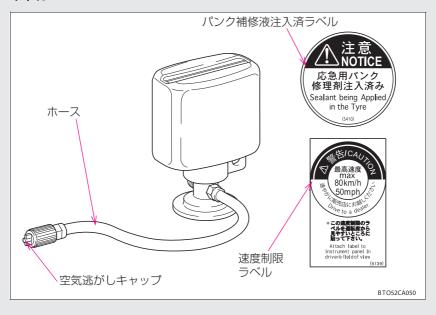
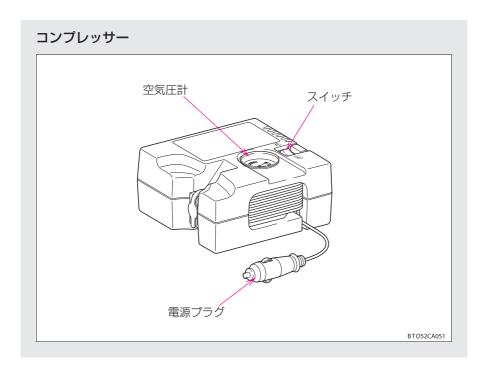
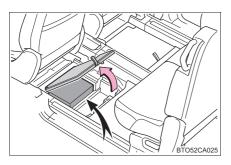
ボトル

コンプレッサー

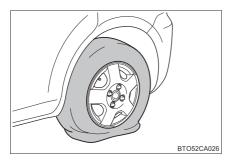
空気圧計

スイッチ

電源プラグ

BTO52CA051

応急修理キットの格納場所

セカンドシート足元の助手席側フロアボックス

応急修理する前に

応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する。

釘やねじなどが刺さった場合のみタイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やねじなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ応急修理が出来なくなることがあります。
・パンク補修液が漏れないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

注意

■応急修理キットによる応急処置が不可能な場合

次のときは、応急修理キットでは応急処置できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき

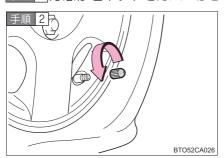
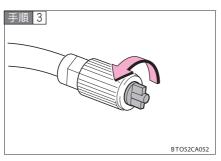
●ホイールが破損しているとき

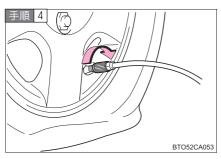
●2 本以上のタイヤがパンクしているとき

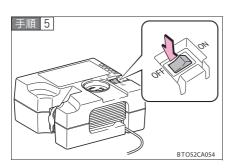
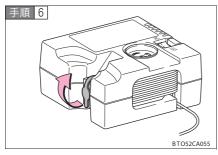
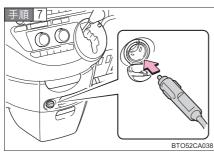
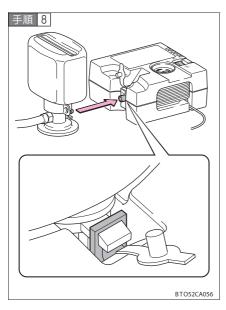
●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

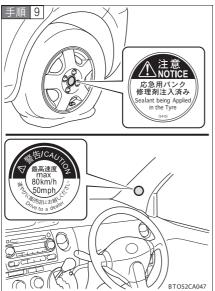
●補修液の有効期限がきれているとき

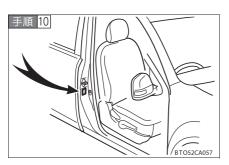
応急修理するときは

手順 1 応急修理キットをカバーから取り出す。

パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす。

ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす。

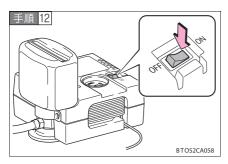
空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する。

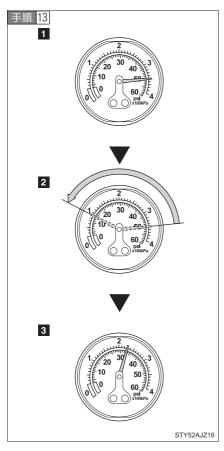
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。

コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する。

コンプレッサーのゴム栓をはずす。

コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む。(→P. 201)

ボトルをコンプレッサーに接続する。

しっかりと接続されているか確認してください。

付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける。

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。

タイヤの指定空気圧を確認する。

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P. 221）

手順 11 エンジンを始動する。

コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する。

手順 13

空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する。

1 スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧が上昇する

2 1 分程度（低温の場合は 15 分程度）で実際の空気圧表示になる

3 指定空気圧になるまで充填する

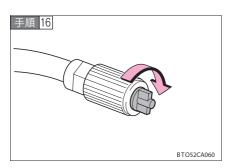
空気圧はコンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

10 分以上(低温の場合は 40 分以上)充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P. 221、P. 293)

手順 14 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜く。バルブからボトルのホースを取りはずす。

ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

手順 15 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける。

手順 16

BTO52CA060

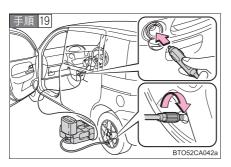
ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける。

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

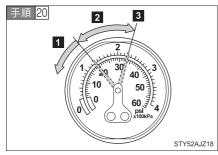
手順 17 いったんボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する。

手順 18 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する。

手順 19

BTO52CA042a

走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する。

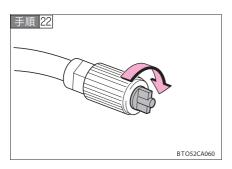
手順 20

STY52AJZ18

コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する。

1 空気圧が 130kpa 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

2 空気圧が 130kpa 以上、指定空気圧未満の場合：手順 21へ

3 空気圧が指定空気圧（→P. 315）の場合：手順 22へ

手順 21 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 19から実施する。

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける。

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

手順 23 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する。

手順 24 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます。

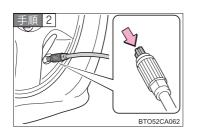
タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 外気温度が -30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからボトルのホースを取りはずす。

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く。

手順 3 ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

手順 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する。
指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限は容器に表示されています。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ホイール・サスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

警告

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットはフロアボックスに収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**パンク補修液について**

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■**パンクしたタイヤを応急修理するときは**

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●パンク補修液注入中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後はボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

警告

● 破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを切り、修理を中止してください。

● 応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。60 分以上連続で作動させないでください。

● 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

● 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

● 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・再度空気圧を測ってください。130kpa　未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理するときは

- タイヤに刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットには防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因となるおそれがあります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットはフロアボックスに収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因となるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 125）に従っても、またステアリングロックを解除（→P. 126）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 125）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。(→P. 84)

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 300)
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 300)
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

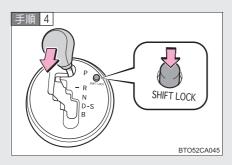
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 エンジン スイッチを“ ACC ”にする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す。

ボタンを押しているあいだはレバーをシフトできます。

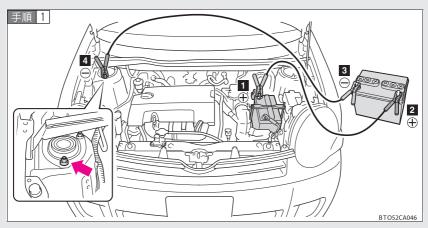
キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 18)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

手順 1

ブースターケーブルを次の順につなぐ。

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ。

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ。

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ。

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 3 自車のエンジンをかける。

エンジン警告灯が点灯していないことを確認してください。

手順 4 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚･衣服･車体につかないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
  また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

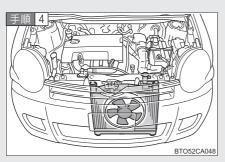
手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

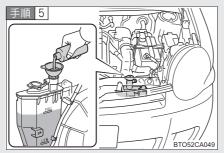
ファンが作動している場合：

高水温警告灯が消灯してからエンジンを止める。

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する。

手順 4

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。

手順 5

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

●水温計警告灯が赤色に点滅したり、エンジン出力が低下する

●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。

●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にする

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

警告

■脱出するときの警告

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

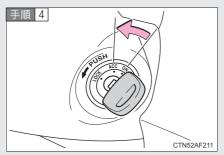
シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4

エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

- ●ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。
- ●キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両の仕様 6

6-1. 仕様一覧

6-2 カスタマイズ機能

6-3 初期設定

メンテナンスデータ (油脂類の容量と銘柄)

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

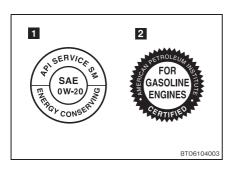
指定燃料	容量 [L]（参考値）	
無鉛レギュラーガソリン	FF 車	42
	4WD 車	45

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル SM 0W-20 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 0W-20 ※ トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 10W-30 トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 —API SL, EC, SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC, SAE 10W-30	3.4	3.7

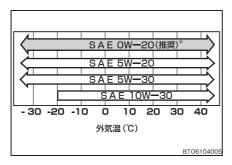
※：0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサック認証）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。

※：0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

● オイル粘度表示の5Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

● 5W-30 の 30 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] （参考値）	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	FF 車	4.9
	4WD 車	4.3

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	駆動方式	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正 CVT フルード　TC	FF 車	6.7
トヨタ純正オートフルード　T―Ⅳ	4WD 車	6.9

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.5

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ギヤオイル スーパー (API GL-5 SAE 75W-90)	0.9

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	50 以上

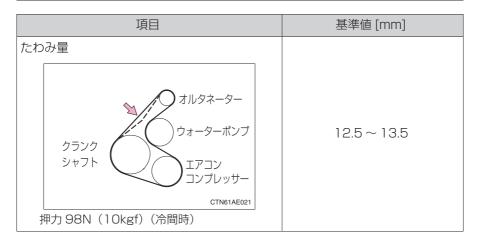
※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	7 ～ 10

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

V リブドベルト

項目	基準値 [mm]
たわみ量 押力 98N（10kgf）（冷間時）	12.5 ～ 13.5

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ・ホイール

標準タイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
175/70R14 84S	14 × 5 1/2JJ	FF 車：230 (2.3) 4WD 車：220 (2.2)	
185/60R15 84H	15 × 5 1/2JJ	220 (2.2)	

スペアタイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
T105/70D16 87M	16 × 4T	420 (4.2)
T125/70D16 96M	16 × 4T	420 (4.2)

電球（バルブ）

	電球	W（ワット）数
車外	ヘッドライト **ハロゲンヘッドライト装着車** （バルブタイプ：H4） **ディスチャージライト装着車** （ディスチャージヘッドライト）	60/55 35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト*（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯	LED ※
	尾灯	5
	後退灯	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
車内	マップライト	8
	ルームライト	8
	ラゲージルームライト	8

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
NCP81G	1NZ-FE （1.5L ガソリン）	FF（前輪駆動）
NCP85G		4WD（4 輪駆動）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートドアロックシステム*（→P. 21）	スマートドアロックシステム	あり	なし

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

初期設定が必要な項目

以下の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
パワーウインドウ	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 78
パワースライドドア*	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 39

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

症状別さくいん

■警告灯一覧

表示	警告灯	ページ
	ブレーキ警告灯	P. 266
	ABS& ブレーキアシスト警告灯	P. 267
	燃料残量警告灯	P. 269
	SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯	P. 267
	エンジン警告灯	P. 267
	油圧警告灯	P. 267
	半ドア警告灯	P. 269
	スリップ表示灯	P. 268
	運転席シートベルト非着用警告灯	P. 269
	助手席シートベルト非着用警告灯	P. 269
	パワーステアリング警告灯	P. 268
	充電警告灯	P. 267
	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯	P. 268
	高水温警告灯	P. 267
VSC	VSC 警告灯	P. 268

警告音が鳴った

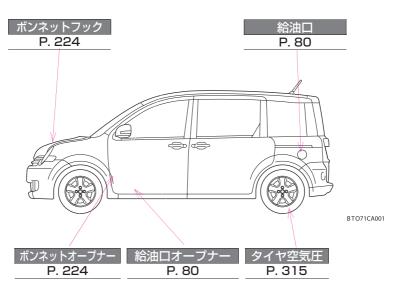
■警告灯の点灯、点滅を確認ください。

● 警告灯が点灯、点滅している（→P. 266）

■警告灯の点灯、点滅がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 126
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 130
	ブレーキを踏んだとき	P. 123

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量 (参考値)	FF 車：42L 4WD 車：45L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン P. 81, 310
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 315
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時：3.4L オイルとフィルター交換時：3.7L
エンジンオイルの種類 (参考値)	トヨタ純正モーターオイル ・ SM0W-20 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 0W-20) ・ SM5W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30) ・ SM10W-30(API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30) ・ SL5W-20 (API SL、EC、SAE 5W-20) ・ SL10W-30(API SL、EC、SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

● イ-28

M 52B53
01999ー52B53
NAB−2012年２月８日
2011年４月18日 初版
2012年２月15日 ５版
シエンタ